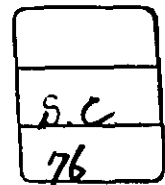
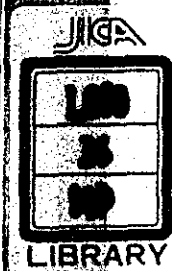


昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書

(第二次確定用)

昭和51年6月

国際協力事業団
鉱工業計画調査部



國際協力事業団	
受入 月日 84.8.30	L000
5/24	36
登録No. 14558	MP

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(第二次確定用)

	承認金額	承認月日	承認番号	業務完了期限	支出金額	返納額	頁
1. アフリカ諸国鉱工業プロジェクト選定確認調査	2,887,835 (2,745,260)	50. 9. 29 (51. 3. 8)	50通第1277号 (51通第214号)	51. 3. 31	2,703,614	41,646	3
2. 中南米諸国鉱工業プロジェクト選定確認調査	2,463,185	51. 2. 4	51通第111号	51. 3. 31	2,242,090	221,095	8
3. フィリピン共和国一貫製鉄所建設計画調査	20,811,757 (20,598,813)	50. 8. 19 (51. 3. 8)	50通第1114号 (51通第214号)	51. 3. 31	19,535,376	1,063,437	13
4. タンザニア連合共和国天然ガス開発計画調査	29,381,786	50. 11. 6	50通第1523号	51. 3. 31	28,251,484	1,130,302	18
5. タイ国クワイヤイ河調整池計画調査	44,222,032 (44,117,802)	50. 10. 25 (51. 3. 8)	50通第1395号 (51通第214号)	51. 3. 31	43,722,591	395,211	23
6. ブラジル国スパー臨海工業団地計画調査	46,556,665	50. 12. 18	50通第1707号	51. 3. 31	44,887,309	1,669,356	29
7. コロンビア共和国石炭開発計画調査	24,092,719	51. 1. 27	51通第31号	51. 3. 31	24,038,883	53,836	34
8. ビルマ連邦社会主義共和国敷設油所建設計画調査	23,526,521	51. 1. 29	51通第86号	51. 3. 31	21,365,020	2,161,501	41
9. アルゼンチン共和国鉱物資源開発計画調査	32,821,801	51. 1. 27	51通第55号	51. 3. 31	31,771,921	1,049,880	46
10. インドネシア共和国ランパン工業団地建設計画調査	13,553,365	51. 2. 6	51通第91号	51. 3. 31	13,544,235	9,130	53
11. エチオピア国ナ湖周辺地域電力開発計画調査	16,668,800	51. 2. 27	51通第233号	51. 3. 31	16,066,782	602,018	58
12. チリ共和国バケル河水力発電計画調査	20,647,949	51. 1. 30	51通第64号	51. 3. 31	20,344,828	303,121	63
13. インドネシア共和国サダン河水文調査	6,805,105	51. 2. 6	51通第92号	51. 3. 31	6,738,604	66,501	69
14. パプア・ニューギニア、ワラリ河電力開発計画調査	267,166,686	50. 8. 19 51. 1. 29	50通第1075号 51通第32号	51. 3. 31 "	278,245,476 278,245,496	11,078,790 11,078,810	75
小計	551,606,206 (551,146,457)				553,458,213 553,458,733	1,852,007 1,852,027	
第一次確定分(タンザニア連合共和国キリマンジャロ州中小工業開発計画調査他12件)	245,438,654 (241,834,811)				241,834,811	3,603,843	
計	797,044,860 (792,981,268)				795,293,024 795,293,044	1,751,836 1,751,816	

	(当初計画額) 計画額	(A) 資金請求済額	(B) 支出額	(C=A-B) 残額	(D) 流用額	(E=C-D) 返納額	備 考
(1) 技術調査団派遣費	(622,393,000) 430,151,000	422,028,488	411,373,448	10,655,040	△ 10,655,040	0	大規模……に流用
(2) プロジェクト選定確認調査団 派遣費	(10,742,000) 7,200,000	7,826,986	6,937,259	889,727	△ 661,647	228,080	"
(3) 技術調査団長期派遣費	(121,827,000) 99,101,000	100,022,710	98,736,841	1,245,859	△ 1,285,859	0	"
(4) 大規模電源開発協力基礎調査 団派遣費	(200,000,000) 267,167,000	267,166,686	278,245,476 278,245,496	11,078,790 11,078,810	13,602,546	1,523,756 1,523,736	
計	(954,962,000) 803,626,000	797,044,860	795,292,024 795,293,044	1,751,836 1,751,816	—	1,751,836 1,751,816	

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

アフリカ諸国鉱工業プロジェクト選定確認調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

アルジェリア、モロッコ、セネガル、象牙海岸各国に対するわが国の技術協力のうち、鉱工業関係の開発計画調査を効率的に実行するため、各国の要請プロジェクトについてその要請の背景、経済開発計画等における位置づけ等を調査し、本年度ないし来年度実施するプロジェクトの選定確認を行う。

(2) 内容

- イ) 各国の経済開発計画、鉱工業開発計画の内容および関係プロジェクトの進捗状況調査
- ロ) 関係国際機関の各国経済開発計画に対する考え方の調査
- ハ) 各国の日本に対する経済協力、技術協力の緊要度の調査
- ニ) 各国の鉱工業プロジェクトのうち、日本の技術協力を要請するものの内容調査

ホ) 日本が本年度ないし来年度協力する鉱工業関係プロジェクトの選定確認

ハ) 各国政府機関等に対する事業団の業務のPR

(3) 結果

各国関係機関を訪問、前記の調査を行い、多数のプロジェクトを選定したが、直ちに実施に結びつくものはなく、今後の検討に待つものが殆んどであった。

別紙1 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間
1	団長	佐瀬正敬	技術協力行政	21日 50.10.5 ~ 10/25
2	団員	竹内征司	" 一般	" "

(2) 日程、調査内容

日順	月日	曜日	行程	調査内容
1	50.10.5	日	東京 → ロンドン	移動
2	6	月	ロンドン	"
3	7	火	ロンドン → アルジェリア	"
4	8	水	アルジェリア	大使館、商社、電気工業局訪問
5	9	木	"	鉱山局訪問
6	10	金	"	石油局 "
7	11	土	"	鉄鋼・金属局、発展総局訪問
8	12	日	アルジェリア → モロッコ	移動
9	13	月	モロッコ	鉱山局、工業開発庁、鉱物資源開発公社訪問
10	14	火	"	鉱物資源開発公社訪問
11	15	水	モロッコ → セネガル	移動
12	16	木	セネガル	計画協力省訪問
13	17	金	"	工業開発省 "
14	10.18	土	セネガル	大使館訪問

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
15	50. 10. 14	日	セネガル → 象牙海岸	移 動
16	20	月	象牙海岸	計画他各関係省訪問
17	21	火	〃	アフリカ開銀、鉱山局訪問
18	22	水	〃	工業局訪問
19	23	木	象牙海岸 → パリ	移 動
20	24	金	パリ →	〃
21	25	土	→ 東京	〃

別紙Ⅱ

アフリカ諸国鉱工業プロジェクト選定確認調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計画額	変更額	変更後額	実績額
	円	円	円	円
外国旅費	2,191,500	△100,800	2,090,700	2,090,700
現地調査諸費	498,335	△41,775	456,560	455,234
技術費	0	0	0	0
報告書作成費	100,000	0	100,000	77,150
附帯費	98,000	0	98,000	80,530
合 計	2,887,835	△142,575	2,745,260	2,703,614

B. 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	円 2,745,260
支出総額	2,703,614
収支差引額	41,646

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 2,090,700円

1) 渡航費 1,656,300円

東京～アビジョン 往復(エコノミークラス)

828,150円 × 2名 = 1,656,300円

ロ) 渡航雑費 4000円

ハ) 支度金 0円

二) 滞在費

430,400円

団員名	等級	日 当	宿泊費	計
佐瀬正敬	5	$2,900^{\text{円}} \times 2^{\text{日}} +$ $2,500^{\text{円}} \times 10^{\text{日}} +$ $2,400^{\text{円}} \times 9^{\text{日}}$ = 52,400 ^円	$9,100^{\text{円}} \times 1^{\text{泊}} +$ $7,900^{\text{円}} \times 10^{\text{泊}} +$ $7,500^{\text{円}} \times 8^{\text{泊}}$ = 148,100 ^円	200,500 ^円
竹内征司	2	$3,300^{\text{円}} \times 2^{\text{日}} +$ $2,900^{\text{円}} \times 10^{\text{日}} +$ $2,800^{\text{円}} \times 9^{\text{日}}$ = 60,800	$10,300^{\text{円}} \times 1^{\text{泊}} +$ $9,000^{\text{円}} \times 10^{\text{泊}} +$ $8,600^{\text{円}} \times 8^{\text{泊}}$ = 169,100	229,900
/				
計		113,200	317,200	430,400

水) 赴帰任国内旅費..... 0円

(2) 現地調査諸費

455,234円

イ) 現地調査費..... 447,564円
 ロ) 資機材等購送費..... 7,670円

(3) 技術費

0円

イ) コンサルタント経費..... 0円
 直接人件費..... 0円
 諸経費..... 0円
 技術経費..... 0円

ロ) 直接経費..... 0円

(4) 報告書作成費

77,150円

イ) 原稿作成費..... 0円
 ロ) 印刷代..... 57,650円
 ハ) 翻訳..... 19,500円

(5) 附帯費

80,530円

イ) 庁 費..... 80,530円
 交通費..... 12,550円
 会議費..... 67,980円
 その他..... 0円

ロ) 国内旅費..... 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

中南米諸国鉱工業プロジェクト選定確認調査

1. 調査の目的、内容及び結果

ホ) 日本が来年度以降協力しうる鉱工業関係プロジェクトの選定確認

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

ハ) 各国政府機関等に対する事業団の業務のP.R.

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

(3) 結果

各国関係機関を訪問、前記調査を行い、来年度以降実施可能な有望プロジェクトを選定した。

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

ベネズエラ、パナマ、ホンジュラス、エル・サルバドル各国に対するわが国の技術協力のうち、鉱工業関係の開発計画調査を効率的に実行するため、各国の要請プロジェクトについてその要請の背景、経済開発計画等における位置づけ等を調査し、来年度以降実施するプロジェクトの選定確認を行う。

(2) 内容

- イ) 各国の経済開発計画、鉱工業開発計画の内容および関係プロジェクトの進捗状況調査
- ロ) 関係国際機関の各国経済開発計画に対する考え方の調査
- ハ) 各国の日本に対する経済協力、技術協力の緊要度の調査
- ニ) 各国の鉱工業プロジェクトのうち、日本の技術協力を要請するものの内容審査

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間				団員名	業務	調査期間	
1	団長	植村 俊夫	技術協力一般	21日	5/13/6 ~ 3/26						
2	団員	井上 毅	行政	〃	〃						

(2) 日程、調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	3. 6	土	東京 — ニューヨーク — カラカス	移動日
2	3. 7	日	カラカス	大使館、現地駐在商社、JETROより状況ヒヤリング
3	3. 8	月	カラカス	CODEPLAN CONADI 会議
4	3. 9	火	カラカス → ガイアナ	グリ発電所、フェロミイネラア鉄鉱山実査
5	3. 10	水	ガイアナ → カラカス	ALCASA、オリノコ製鉄所、CIDOL 訪問
6	3. 11	木	カラカス → パナマ	移動日、大使館打合せ、進出企業ヒヤリング、経済企画省訪問
7	3. 12	金	パナマ	鉱山局、電力庁 訪問
8	3. 13	土	パナマ → ペリメ往復	ペタキジヤ 鉱山開発に関する道路搬出港先等インフラ実査
9	3. 14	日	パナマ	資料整理
10	3. 15	月	パナマ、パナマ → コロン往復	公益事業省訪問、コロン・フリーゾーン地区実査
11	3. 16	火	パナマ → テグシカルバ	大使館打合せ、現地駐在企業より事業概況ヒヤリング
12	3. 17	水	テグシガルバ、テグシカルバ → チルチカ往復	経済企画調整省、天然資源省等合同会議、三菱製糖建設工場実査
13	3. 18	木	テグシガルバ	投資公社にて要請条件ヒヤリング
14	3. 19	金	テグシガルバ	鉱山局にてヒヤリング

日順	月 日	曜日	調 査 日 程	調 査 内 容
15	3. 20	土	テグンガルパ グテマラ サン・サルバドル	移動日、大使館打合せ
16	3. 21	日	サン・サルバドル	大使館打合せ、現地進出企業ヒヤリング
17	3. 22	月	サン・サルバドル	経済企画調整省にて各省庁合同会議
18	3. 23	火	サン・サルバドル	貿易公社訪問、空港フリーゾーン実査、経済企画省合同会議
19	3. 24	水	サン・サルバドル メキシコ	大使館訪問、進出企業 IUSA 実査、移動
20	3. 25	木	メキシコ 東京	} 移 動
21	3. 26	金	東京 帰着	

別紙Ⅱ

中南米諸国鉱工業プロジェクト選定確認調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計 画 額	変 更 } 額	変 更 } 額	実 績 額
	円	円	円	円
外 国 旅 費	1,854,340			1,739,070
現 地 調 査 諸 費	448,945			361,022
技 術 費	0			0
報 告 書 作 成 費	0			0
附 帯 費	160,000			141,998
合 計	2,463,185			2,242,090

B. 収支決算

費 目	金 額
概 算 受 入 額	円 2,463,185
支 出 総 額	2,242,090
収 支 差 引 額	221,095

2. 収支決算科目内訳

(1) 外国旅費 1,739,070円

イ) 渡航費 1,055,200円

東京～カラカス 往復

527,600円 × 2名 = 1,055,200円

ロ) 渡航雑費 2,010円

ハ) 支度金 132,060円

2等級 70,070円 × 1名 = 70,070円

4 " 61,990円 × 1名 = 61,990円

"

二) 滞在費 549,800円

団員名	等級	日 当	宿 泊 費	計
榎村俊夫	2	円×日+ 3,800円×21日 79,800円	円×日+ 11,400円×19泊 216,600円	296,400円
井上 毅	4	3,200円×21日 67,200円	9,800円×19泊 186,200円	253,400円
/				
計		147,000円	402,800円	549,800円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 361,022円

イ) 現地調査費 351,452円
ロ) 資機材等購送費 9,570円

(3) 技術費 0円

イ) コンサルタント経費 0円
直接人件費 0円
諸 経 費 0円
技術経費 0円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

イ) 原稿作成費 0円
ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 141,998円

イ) 庁 費 141,998円
交通費 9,630円
会議費 90,468円
其 他 42,000円

ロ) 国内旅費 円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

フィリピン共和国一貫製鉄所建設計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙エ)

3. 調査業務収支決算書(別紙エ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

一貫製鉄所プロジェクトに関する現状と将来における関連諸条件に関する調査を実施し、当該製鉄所の建設及び操業のための計画を策定する場合に参考となる問題点を指摘すること。

(2) 内容

関連地域において現地調査を実施し、現地調査の結果に基づき、資料・情報の解析等国内作業をおこなった報告書を作成し相手国へ送付する。

i) 鉄鋼政策

ii) 製鉄所建設の企画・推進の手順および組織

iii) 国内原料の利用可能性

iv) 原料および製品の輸送システム

v) 建設予定地の立地的特性

vi) 一貫製鉄所に関するインフラストラクチャー

vii) 製鉄所の安定操業に不可欠な関連産業

viii) 技術者およびその訓練養成制度

ix) 鉄鋼需要産業

(3) 結果

(i) 現在の第1期計画を2段階に分け、その前半段階における粗鋼生産規模を100万トン以下に選択し、後半段階における規模を前半段階の倍あるいはそれ以上とする。

(ii) 安定的な高炉の2基段階へ早期に移行するためには、現段階から後半段階にのりても、前半段階と同様の具体性をもちて検討すべきである。

(iii) 一貫製鉄所の建設および操業までの準備段階におけるスケジュールを4段階に分けて考え得る。

(iv) 当面の課題として、このプロジェクトに関する検討組織を設置すべき最終報告書(英和文各100部)を作成し、英文50部を相手政府へ送付した。

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間			団員名	業務	調査期間	
1	団長	福田 保久	総括	15日	50. 8/24~27	8	団員 高子 泰彦	建設企画 推進 組 織	15日	50. 8/24~27
2	団員	鈴木 滋男	鉄鋼政策	"	"	9	" 小林 敏	技術訓練養成制度	"	"
3	"	清水 久男	土地 インフラストラクチャー	"	"	10	" 黒子 孟夫	企画・調整・渉外	"	"
4	"	大森 史郎	関連産業	"	"					
5	"	佐藤 仁宏	輸送システム 鉄鋼需要産業	"	"		〔報告書説明〕			
6	"	榎原 一夫	国内原料 輸送システム	"	"	1	団長 鉄木 滋男	報告書説明	1日	51. 7/1~7/7
7	"	井上 章	輸送システム 鉄鋼需要産業	"	"	2	団員 清水 久男	"	"	

(2) 日程 調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	8. 24	日	東京 → マニラ	移動 (JL 767) 鉄鋼関係商社との懇談会
2	8. 25	月	マニラ	日本大使館と事前打合せ
3	8. 26	火	"	比側カウンターパートと事前打合せ National Steel Corp 社長と会談 Paterno 大臣と会談 Iron & Steel Authority の会合
4	8. 27	水	"	比側カウンターパートと打合せ 在比日本大使と会談
5	8. 28	木	マニラ → カガヤン	移動 (PAL 111) Tagaban - Villanueva 工業団地視察
6	8. 29	金	カガヤン → イリガン	" (車)、水力発電所視察 National Steel Corp 訪問 Maria Gristina Chemical Industry Inc. 訪問
7	8. 30	土	イリガン → セブ → マニラ	移動 (PAL 446, PAL 150) Cebu Ship yards Inc 訪問

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
8	8.31	日	マニラ	Tagay Tagay 及びバタソガスの立地調査
9	9.1	月	"	比側カウンターパートと打合せ、PHIVIDEC Industrial Estate Authority 訪問、関係各省庁訪問
10	9.2	火	"	鉄鋼会社、関連企業視察
11	9.3	水	"	関連企業訪問、関係各省庁訪問
12	9.4	木	"	比側カウンターパートとの打合せ、中間報告書ドラフト作成
13	9.5	金		日本大使館に対する中間報告書説明 比国政府高官に対する "
14	9.6	土		比側カウンターパートとの最終打合せ及び中間報告書説明 比側関係者全員に対する中間報告会
15	9.7	日	マニラ → 東京	移動 (JAL 766)
〔報告書説明〕				
1	5/1.2.1	日	東京 → マニラ	移動 (PR-427)
2	2.2	月	マニラ	スケジュール打合せ (於日本大使館) 日本大使館 JICA office に対する説明
3	2.3	火	"	レポート整備、カウンターパートグループに対する説明
4	2.4	水	"	レポート補足作業 (パテル) 工業大臣とNSC社長に対する説明
5	2.5	木	"	レポート補足・整理、カウンターパートとの質疑応答
6	2.6	金	"	カウンターパートとの質疑応答
7	2.7	土	マニラ → 東京	移動 (NW 006)

別紙Ⅱ

フィリピン共和国一貫製鉄所建設計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計画額	変更額	変更後額	実績額
	円	円	円	円
外国旅費	4,486,160	0	4,486,160	4,272,350
現地調査諸費	1,456,036	△ 212,944	1,242,092	1,163,688
技術費	10,956,561	0	10,956,561	10,378,043
報告書作成費	3,590,000	0	3,590,000	3,538,500
附 帯 費	326,000	0	326,000	182,995
合 計	20,811,757	△ 212,944	20,598,813	19,535,376

B. 収支決算

費 目	金 額
既得受入額	円 20,598,813
支出総額	19,535,376
収支差引額	1,063,437

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 4,272,350円

1) 渡 航 費 1,872,350円

東京～マニラ 往復

(F) 178,350円 × 1名 = 178,350円

(E) 154,000円 × 9名 = 1,386,000円

(現地調査分小計 1,564,350円)

(E) 154,000円 × 2名 = 308,000円
(報告書説明分)

2) 渡航雑費 19,400円

現地調査分 19,400円

報告書説明分 0円

3) 支 展 金 300,400円
(現地調査分のみ)

1等級 78,160円 × 2名 = 156,320円

2 " 70,070円 × 2名 = 140,140円

3 " 66,030円 × 2名 = 132,060円

4 " 61,990円 × 2名 = 123,980円

5 " 53,900円 × 1名 = 53,900円

二) 滞在費 1,774,200円

団員名	等級	日 当	宿 泊 費	計
飛田保久男 清水久夫	1	(3,200円×15日)×3名 = 144,000円	(10,100円×14泊)×3名 = 424,200円	568,200円
大森史郎 佐藤仁彦	2	(2,800円×15日)×2名 = 84,000円	(8,600円×14泊)×2名 = 240,800円	324,800円
鈴木滋男 神原一夫	3	(2,400円×15日)×2名 = 72,000円	(7,500円×14泊)×2名 = 210,000円	282,000円
井上章 高寺泰考	4	(2,400円×15日)×2名 = 72,000円	(7,500円×14泊)×2名 = 210,000円	282,000円
小林 徹	5	(2,400円×15日)×1名 = 36,000円	(7,500円×14泊)×1名 = 105,000円	141,000円
(現地調査分) 小 計		(408,000円)	(1,190,000円)	(1,598,000円)
清水久男	1	3,800 × 7日 = 26,600円	11,400円 × 6泊 = 68,400円	95,000円
鈴木滋男	3	3,200円 × 7日 = 22,400円	9,800円 × 6泊 = 58,800円	81,200円
(報告書説明分) 小 計		(49,000円)	(127,200円)	(176,200円)
計		457,000円	1,317,200円	1,774,200円

三) 赴滞在国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 1,163,688円

イ) 現地調査費 1,006,530円 (現地調査分)
92,043円 (報告書説明分)

ロ) 資機材等購送費 65,115円
(事務用品・医薬品)

(3) 技術費 10,378,043円

イ) コンサルタント経費 10,378,043円
 直接人件費 (現地調査分) (国内作業・報告書説明分)
 1,789,400円 2,412,238円
 諸経費 1,610,460円 2,171,014円
 技術経費 1,018,956円 1,374,975円
 (小 計) (4,419,816円) (5,958,227円)

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 3,538,500円

イ) 原稿作成費 1,550,500円

ロ) 印刷代 1,988,000円

(5) 附帯費 182,795円

イ) 庁 費 182,795円
 交通費 5,060円
 会議費 129,275円
 その他 48,460円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

タンザニア連合共和国天然ソーダ開採調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

天然、ソーダ灰の開採に関する最適投資計画のガイドラインを作成するとともに、本格的フェジビリティ調査を実施する場合には必要な調査事項および調査計画を作成すること。

さらに、同時に並行して当事業団が実施する関連輸送および港湾施設の調査と共同作業を行ない本プロジェクトの総合的評価を行なうこと。

(2) 内容

下記事項に関し、現地調査を行ない、その結果に基づき報告書原稿を作成すること。

記

- i) 資源調査(ナトロン湖の概観、資源の品質分析・分布状況埋蔵量、採掘方法、採掘適地)
- ii) 生産工程(工場立地、工程の基本概念、工場の概念設計関連施設)
- iii) 市場と価格(製品の用途、需給動向、需給予測)
- iv) 経済評価(投資額の見積、労働力の見積、製造コスト収支検討)
- v) 総合評価(経済的效果他)

(3) 結果

上記調査内容につき、現地調査並びに国内作業を実施し、報告書(原稿)——和文・英文——を作成した。

結論としては、生産規模年間100万トンで輸送手段として、ナトロン湖へアリユージャ間を道路新設し、アリユージャ～タンガ間は既存鉄道を修復利用する場合においてのみ経済性がある。しかしながら全量(100万トン)を世間市場へ輸出することは極めて困難である。

別紙1 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間			団員名	業務	調査期間
1	団長	新村 明	総括・環境	25日 50.11/13~12/7	7	団員	浅倉 健一	地質	23日 50.11/13~12/5
2	団員	田代 園	経済評価	21 11/13~12/3	8	"	諸藤 正光	プラント設計	" "
3	"	半沢 金男	需 要	25 11/13~12/5	9	"	小嶋 洋美	業務調整	" "
4	"	佐伯 徳人	化学プロセス	" "	10	"	難波 武夫 (J.I.C.A ナロビ事務所)	経済一般	14 11/13~11/26
5	"	松尾 博之	資 源	" "					
6	"	磯部 征志郎	ユーティリティー	" "					

(2) 日程 調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	11. 13	木	Tokyo → Dar es Salaam	移動 (BA 911)
2	14	金	Dar-es-Salaam	大使館表敬訪問、関係省庁訪問 合同打合せ (スケジュール打合せ)
3	15	土		セメント工場視察 工業省世銀訪問 打合せ
4	16	日	Dar es Salaam → Nairobi	スケジュール打合せ 港灣その他市内視察 移動 (EC 920)
5	17	月	" Tanga	関係省庁世銀との打合せ Tanga 港視察 Tanga 肥料工場視察 JICA事務所訪問、調査機材調査
6	18	火	Dar es Salaam → Arusha	資料収集 移動 (EC 904) 調査機材調査
7	19	水	Arusha → Nairobi	市内視察 カウンターパート打合せ 移動 (車)
8	20	木	Arusha	移動 (車)
9	21	金	→ Lake Natron	" (") 調査基地設置 Site Survey
10	22	土	Lake Natron	Site Survey Sampling

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容		
11	11. 23	日	Lake Natron	Site Survey Sampling		
12	24	月	"	" "		
13	25	火	Lake Natron → Arusha	移動 (車)		
14	26	水	Arusha	Arusha Nairobi	調査データ整理 打合せ	移動 (車) 調査機材返却
15	27	木	"	Nairobi	タイヤ工場混雑、中継基地、地味調査、資料収集	返却機材チェック
16	28	金	"	"	打合せ 中間報告書資料作成	滞達代金支払い
17	29	土	"	"	中間報告書資料作成	JICA事務所訪問 会計事務
18	30	日	"	Nairobi Arusha	"	移動 (EC 555)
19	12. 1	月	Arusha		インフラ班との合同打合せ、カウンターパートとの打合せ	
20	2	火	"		中継基地及び中小規模工業団地視察	
21	3	水	Arusha	Dar es Salaam	移動 (EC 831) 大使館訪問	
22	4	木	Dar es Salaam	Dar-es-Salaam	" (BA 61)	移動
23	5	金	↳ Tokyo	↳ Bangkok	" (BA 910)	"
24	6	土		Bangkok		情報 資料収集
25	7	日		Bangkok Tokyo		移動

別紙Ⅱ

タンザニア連合共和国天然ソーダ灰開発調査調査費支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計 画 額	交 流 更 正 } 額	交 流 更 正 } 後 額	実 績 額
	円	円	円	円
外 国 旅 費	8,724,450			7,795,350
現 地 調 査 諸 費	3,494,419	348,000	3,842,419	3,829,754
技 術 費	15,588,877	△ 348,000	15,240,877	15,138,230
報 告 書 作 成 費	1,180,000			1,180,000
附 帯 費	394,040			308,150
合 計	29,381,786			28,251,484

B. 収支決算

債 目	金 額
	円
概 算 受 入 額	29,381,786
支 出 総 額	28,251,484
収 支 差 引 額	1,130,302

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 7,795,350円

1) 渡航費 5,014,600円
 東京～Dar-es-Salaam 往復 Arushu～Bangkok～東京
 $560,500円 \times 1名 = 560,500円$
 東京～Dar-es-Salaam～Tanga～Arushu～東京
 $560,050円 \times 6名 = 3,360,300円$
 東京～Dar-es-Salaam～Arushu～東京
 $546,900円 \times 1名 = 546,900円$
 東京～Dar-es-Salaam～Nairobi～Arushu～東京
 $546,900円 \times 1名 = 546,900円$

ロ) 渡航雑費 22,790円

ハ) 支度金 516,100円
 2等級 70,070円 \times 3名 = 210,210円
 3 " 66,030円 \times 3名 = 198,090円
 5 " 53,900円 \times 2名 = 107,800円

二) 滞在費 2,102,600円

団員名	年級	日 当	宿 泊 費	計
新村 明	3	(2,500円×22日)+ (2,400円×3日) = 62,200円	7,900円×21泊+ 7,500円×2泊 = 180,900円	243,100円
佐伯 徳 人	2	(2,900円×22日)+ (2,800円×1日) = 66,600円	9,000円×21泊 = 189,000円	255,600円
半 沢 金 男	2	(2,900円×22日) + 2,800円×1日 = 66,600円	9,000円×21泊 = 189,000円	255,600円
田 代 圓	2	(2,900円×20日) + (2,800円×1日) = 60,500円	9,000円×19泊 = 171,000円	231,500円
松 尾 博 之	3	(2,500円×22日) + (2,400円×1日) = 57,400円	7,900円×21泊 = 165,900円	223,300円
磯 部 征 志 郎	3	(2,500円×22日) + (2,400円×1日) = 57,400円	7,900円×21泊 = 165,900円	223,300円
浅 倉 健 一	5	(2,500円×22日) + (2,400円×1日) = 57,400円	7,900円×21泊 = 165,900円	223,300円
諸 藤 正 光	5	(2,500円×22日) + (2,400円×1日) = 57,400円	7,900円×21泊 = 165,900円	223,300円
小 嶋 洋 美	4	(2,500円×22日) + (2,400円×1日) = 57,400円	7,900円×21泊 = 165,900円	223,300円
計		543,200円	1,559,400円	2,102,600円

木) 赴帰任国内旅費 139,260円

(2) 現地調査諸費 3,829,754円

イ) 現地調査費 3,789,524円

ロ) 資機材等購送費 40,230円
(事務用品・医薬品)

(3) 技術費 15,138,230円

イ) コンサルタント経費 13,984,230円
(現地調査分) (国内作業分)

直接人件費 2,279,144円 3,383,300円
諸 経 費 2,051,227円 3,044,970円
技 術 経 費 1,299,108円 1,928,481円
(小 計) (5,629,479円) (8,356,751円)

ロ) 直接経費 1,152,000円
(資料分析費)

(4) 報告書作成費 1,180,000円

イ) 原稿作成費 1,180,000円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 308,150円

イ) 庁 費 238,890円

交通費 0円

会議費 221,990円

その他 16,900円

ロ) 国内旅費 69,260円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

タイ王国クワイヤイ河調整池計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙I)

3. 調査業務収支決算書(別紙II)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

タイ国政府の要請に基づき、現在クワイヤイ河に建設中のバンチャオネン発電所の放流に対する逆調整池と同発電所の第2期揚水発電のための下池とを兼ねる調整池計画(自流式発電計画を含む)のF/S調査を行い、あわせて同調整池を下池とする純揚水発電計画のプレF/S調査を実施するものである。

(2) 内容

- ① 関連資料の収集
- ② EGAT系統内の電力供給計画の検討
- ③ 逆調整池計画および純揚水発電計画に関し、次の調査、検討を行う。

(イ) 逆調整池計画

- 水文解析、地形、地質状況の調査

- 逆調整池容量の検討および最適ダムサイトの選定
- 発電計画の検討
- 工事用材料調査
- 構造物の予備設計
- 概算工事費の算定および経済性の検討

(ロ) 純揚水発電計画

- 発電計画の検討
- 地形地質状況の調査
- サイトの選定
- 主要構造物の概略設計

(3) 結果

現地調査および国内設計の一部を実施した。国内設計は全体の70%程度が終了、6/1年度に引き続き残りを行う予定である。

現在までに判明した結果のうち主な点は次の通り。

- ① 需給計画 原子力発電所導入時期が1985年以降の電力事情を左右するものと見られ、公害問題等で投入時期が遅れる場合水力、火力発電の新規開発が緊急課題となる。
- ② 調整池ダム サイト: バン・タ・ラウ・ナ 地形地質的に問題なし
有効貯水容量 $27,600 \times 10^3 m^3$
型式: コンクリート重力式 ロックフィル型
堰高: 33m 堤頂長 950m 設計洪水量: $3000 m^3/秒$
- ③ 発電所 最大出力: 377KW 年間発電容量: 155万KWH
最大使用水量: $290 m^3/秒$
発電機 水車: 各2台 ゲート: 4門
工期: 39ヶ月 (1977年7月~1980年9月)
- ④ 純揚水発電計画 最大出力: 300MW~500MW
上池容量: 約3MCM

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間				団員名	業務	調査期間	
1	団長	野尻 慎一	総括	45日	50.11/2~12/26	5	団員	柴田 祐啓	地質	45日	50.11/2~12/26
2	団員	阿部 秀俊	土木計画	"	"	6	"	井上 浩吉	業務調整	21	50.11/2~12/2
3	"	武岡 三七一	土木設計	"	"						
4	"	大塚 公	電気	"	"						

(2) 日程・調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容	
1	11. 12	水	東京発 9時40分 (JAL 717便) バンコック着 17時10分		
2	13	木	大使館 JICA DTEC, EGAT	関係機関挨拶	
3	14	金	EGAT	調査日程、方針等打合せ、関連資料収集	
4	15	土	バンコック	調査方針等検討、収集資料検討	
5	16	日	"	収集資料検討	
6	17	月	EGAT	調査方針等検討、関連資料収集	
7	18	火	" (井上団員) JICA 商工会議所 JETRO	調査方針等打合せ、関連資料収集	経済関係等現地事情ヒアリング/鉱工業案件打合せ
8	19	水	バンコック→ヴァジロンコンガム→バンチャオネン	ヴァジラロンコンガム川用ダム視察、作業状況ヒアリング、現地調査日程等打合せ	
9	20	木	バンチャオネン 事務所 バンタラウングチ ダムサイト	ダムサイト周辺調査 (ボーリング/テストピット/ベンチマーク等位置チェック、追加テストピット位置指示等)	
10	21	金	"	"	

日順	月 日	曜日	行 程		調 査 内 容			
11	11. 22	土	バンチャオネン 事務所	(柴田 武岡 氏) バンウトウグナムサイト	(阿部 大塚, 井上 氏) バンチャオネンダム	バンチャオネン測水資料検 討	ダムサイト周辺地質調査 (地質調査, テストピット調査等)	バンチャオネンダム工事現 場視察
12	23	日	バンチャオネン キャンプ	(") "	(大塚 氏) 車 バンチャオネン → バンコック	現地調査結果にフタぎ検討	"	
13	24	月	バンチャオネン 事務所	バンウトウグナム ダムサイト	(大塚 氏) EGAT	ダムサイト周辺調査(材料, 流況等)	EGAT電力需給に関する調査 関連資料収集	
14	25	火	"	"	(") "			
15	26	水	"	(井上 氏) 車 バンチャオネン → バンコック	(") "			
16	27	木	"	バンワングラ ダムサイト	(大塚, 井上 氏) EGAT	比較策ダムサイト周辺調査	現地調査結果報告 関連資料収集	
17	28	金	"	車 バンチャオネン → バンコック	(") "	地質調査工事工程打合せ	EGAT電源開飛計画等 ヒトリンク	
18	29	土	バンコック			収集資料検討, 現地調査結果, 今後の調査方針検討		
19	30	日	バンコック		(柴田 武岡 氏) 車 バンコック → バンチャオネン	収集資料検討		
20	12. 1	月	EGAT	(田長, 井上 氏) 大使館, JICA	(") 車 バンチャオネン → バンコック バンウトウグナム ダムサイト	計画地点による下流流況変動 に関する調査	井上 氏 帰国 後ともなう 関係機関挨拶調査状況報告	ダムサイト, テストピット地質調査 ボーリングコア調査
21	2	火	"	井上 氏 帰国 12月4日, TAL バンコック 飛 (462便)	(") "	水文資料収集, EGAT電力系統運用調査		ダムサイト, テストピット地質調査 およびダムサイト周辺地質調査
22	3	水	"	"	(") "	"		
23	4	木	"	"	(") "	建設コスト等に関する調査		比較策ダムサイト(バンワングラ)周 辺地質調査
24	9日休日 5	金	バンコック 車 バンチャオネン		(") "	"		
25	6	土	バンチャオネン 事務所	逆調整池計画地域 (バンウトウグナム ~ バンチャオネン)		逆調整池計画地域の地質, 流況等調査		新規地点(バンウトウグナム)とバン チャオネン送電系統への連系 に関する調査
26	7	日	"	(") "	(大塚 氏) 車 バンチャオネン → バンコック	"		

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容	
27	12. 8	月	バンチャオネン 逆調整池計画地域 事務所 および揚水計画上池地点 (大塚 団員) EGAT	ヘリコプター フライト 打合せ ヘリコプターによる逆調整池計画地域 および揚水計画上池地点の空中調査 EGAT既設電力設備の運転 状況の調査、関連資料収集	
28	9	火	" 揚水計画上池地点 (") "	揚水計画上池地点踏査	
29	タイ休日 ☑	水	" (") バンコック		収集資料検討
30	11	木	" (") EGAT		EGAT 既設電力設備の運転 状況の調査、関連資料収集
31	12	金	バンチャオネン 車 事務所 バンチャオネン - バンコック (") "	現地調査成果、今後の方針等打合せ	
32	13	土	バンコック	調査結果、収集資料検討	
33	14	日	"	"	
34	15	月	EGAT (団 長) O E C F	EGAT 長期電源開発計画 に関する調査 現地調査結果、今後の方 針等打合せ O E C F よりタイ国に対する ローン供与についてヒアリング	
35	16	火	"	調査結果打合せ	
36	17	水	"	調査結果にクシ打合せ及び中間報告書作成	
37	18	木	"	"	
38	19	金	" (柴田 団員) バンコック 車 → バンチャオネン	" 地形測量進捗状況ヒアリング ボーリング調査打合せ	
39	20	土	バンコック (") バンチャオネン 事務所 バンタラワン ダムサイト	中間報告書作成 バンタラワンサイトにボーリング変 更位置指示	
40	21	日	" (") バンチャオネン - バンコック	"	
41	22	月	EGAT	"	
42	23	火	"	調査結果中間報告書説明 (大使館、JICA、EGAT と打合せ)	
43	24	水	"	継続調査工事 (地形測量、地質調査工事等) 今後の計画、方針等打合せ	
44	25	木	大使館 JICA、EGAT	関係機関挨拶	
45	26	金	8時10分 バンコック発 (JAL 768便) 20時00分 東京着	帰 回	

別紙Ⅱ

タイ王国クワイヤイ河調整池計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A 支出

区 分	計 画 額	変 更 額	変 更 後 額	実 績 額
	円	円	円	円
外 国 旅 費	4466,950	△104,230	4361,720	4,276,320
現 地 調 査 諸 費	924,875	0	924,875	676,086
技 術 費	38,663,207	0	38,663,207	38,663,207
報 告 書 作 成 費	0	0	0	0
附 帯 費	168,000	0	168,000	106,978
合 計	44,222,032	△104,230	44,117,802	43,722,591

B. 収支決算

費 目	金 額
概 算 受 入 額	44,117,802 円
支 出 総 額	43,722,591
収 支 差 引 額	395,211

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 4,276,320円

1) 渡航費 1,312,800円

東京～バンコック往復

$$218,800円 \times 6名 = 1,312,800円$$

ロ) 渡航雑費 12,000円

ハ) 支度金 410,720円

$$1等級 94,910円 \times 1名 = 94,910円$$

$$3 " 80,180円 \times 3名 = 240,540円$$

$$4 " 75,270円 \times 1名 = 75,270円$$

二) 滞在費 2,540,800円

団員名	等級	日 当	宿泊費	計
野尻 慎一	1	3,200円 × 45 = 144,000円	10,100円 × 44泊 = 444,400円	588,400円
阿部 秀俊	3	2,400円 × 45 = 108,000円	7,500円 × 44泊 = 330,000円	438,000円
大塚 公	3	2,400円 × 45日 = 108,000円	7,500円 × 44泊 = 330,000円	438,000円
柴田 祐啓	3	2,400円 × 45日 = 108,000円	7,500円 × 44泊 = 330,000円	438,000円
武岡 三七一	4	2,400円 × 45日 = 108,000円	7,500円 × 44泊 = 330,000円	438,000円
井上 浩吉	4	2,400円 × 21日 = 50,400円	7,500円 × 20泊 = 150,000円	200,400円
計		626,400円	1,914,400円	2,540,800円

ホ) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 676,086円

1) 現地調査費 570,166円

ロ) 資機材等購送費 105,920円

(3) 技術費 39,663,207円

1) コンサルタント経費 37,663,207円

直接人件費 12,810,615円

諸経費 14,091,676円

技術経費 10,760,916円

ロ) 直接経費 1,000,000円

(4) 報告書作成費 0円

1) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 106,978円

1) 庁費 106,978円

交通費 6,750円

会議費 100,228円

その他 0円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

ブラジル連邦共和国スアッパ臨海工業団地計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

ブラジル国政府の要請にちとずき、同国が東北地方開発の重点として計画しているスアッパ臨海工業団地計画について、その経済的、技術的可能性を調査するものである。

ブラジル国は、東北地方の開発を国家開発計画の一環としており、また、工業の地域分散という見地から東北部沿岸の主要都市であるペルナンブゴ州レシフェ近郊に大規模な臨海工業団地を建設し、石油精製等を立地せしめようとしている。

しかしながら、同国にはこれが計画に関連する技術が充分になく、わが国に技術協力の要請を行なったものである。

(2) 内容

本件調査は、上述の要請に基づき、下記事項について調査を行なった。

イ. 東北伯地域の位置づけとスアッパ地域開発の課題

(i) 国家開発計画における東北伯地域の位置づけ

(ii) スアッパ地域の役割と機能

ロ. 主要計画についての機能的、技術的、経済的側面からのレビュー

(i) 工業開発 工業立地条件の検討、工業開発の地域分担、業種の選定、開発規模の想定、環境保全対策、工業配置、工業開発上の問題点

(ii) 開発効果 戦略的開発方法の認識、開発効果の分析、総合的評価

(iii) 地域計画 レシフェとスアッパ地区の機能分担
都市機能の必要量、土地利用、地域開発プログラム、現況土地利用計画上の問題点

(iv) インフラストラクチャー
スアッパ地域の位置づけ、インフラ需要、インフラ配置(港湾、鉄道、空港、水資源、電力、エネルギー)
インフラ整備プログラム

ハ. 計画実施上の問題点、今後の課題総合評価

(5) 結果

昭和50年度においては、上記に関する現地調査及び国内作業を行ない、報告書の和文原稿作成までの事業を実施した。

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

	団員名	業務	調査期間		団員名	業務	調査期間
1	団長 飯島 貞一	総括	25日 5/19~2/2	7	団員 渋谷 実	インフラ	25日 5/19~2/2
2	団員 滝沢 宏夫	立地行政	" "	8	" 堀 清弘	開港効果	" "
3	" 小原 成介	工業開発	" "	9	" 小久保 寿一	業務調整	" "
4	" 真野 博司	業種選定	" "				
5	" 紺野 昭	地域開発	" "				
6	" 幸野 弘道	港湾施設	" "				

(2) 日程、調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	1. 9	金	東京発 16:15 PA002 NY着 17:50 NY発 20:30 PA201	
2	10	土	R10着 08:30	
3	11	日	R10発 16:30 RG400 ブラジリア着 18:05	リオデジャネイロ港調査
4	12	月	ブラジリア	(前) 内務省 (後) 企画庁
5	13	火	"	(前) 商工省 (後) 鉱山動力省
6	14	水	" ブラジリア発 18:00 R10着 19:30	V0291 (前) 日本大使館 (後) 運輸省
7	15	木	リオデジャネイロ	(前) 資料収集 JICA事務所 (後) 港湾公社(ポトラス) トランスコン社
8	16	金	R10発 10:00 SC932 サンパウロ着 11:00	(後) 日本総領事館、商工会議所、JETRO---経済性 ワタソン工業地帯調査-----インフラ班
9	17	土	サンパウロ発 15:00 Vシエ着 19:35 QD500	(前) パシフィックコンサルタンツ
10	18	日	レシフェ	資料整理 レシフェ市内インフラ調査

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
11	1. 19	月	レシフエ	(前) 東北伯開飛行 へ州政府 (後) へ州開発公社
12	20	火	"	へ州開発公社
13	21	水	"	
14	22	木	"	(前) スアッパ地区 航空機による調査 (後) スアッパ地区 舟艇による調査
15	23	金	"	へ州開発公社
16	24	土	レシフエ発 10:30 サルバドル着 11:30 QD501	(後) アラツイー工業団地航空機による調査
17	25	日	サルバドル	資料整理 アラツイー工業団地インフラ調査
18	26	月	サルバドル発 18:30 レシフエ着 19:35 QD500	アラツイー工業団地事務局
19	27	火	レシフエ	へ州開発公団
20	28	水	"	(前) 総領事館報告 (後) 東北伯開飛行報告
21	29	木	(田長幸野滝沢小沢) フラジリア着(第1班) レシフエ発 8:30(紺野小原奥野波谷城) リオ着(第2班)	(後) 第1班 日本大使館 内務省報告 第2班 トランスコン社 ペトログラス UEB
22	30	金	第1班 フラジリア発 11:30 リオ着 13:30	第2班 ペトログラス トランスコン社
23	31	土	リオ発 11:00 ロス着 20:30 RG842	
24	2. 1	日	ロス発 10:30	} JAC 061
25	2	月	東京着 19:30	

別紙Ⅱ

ブラジル連邦共和国スアパ臨海工業団地計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計 画 額	流 用 額	流 用 後 額	実 績 額
外 国 旅 費	10,436,900 円	545,381 円	10,982,281 円	10,777,830 円
現地調査諸費	2,877,455	0	0	1,877,446
技 術 費	32,489,070	△ 545,381	31,943,689	31,943,686
報告書作成費	520,000	0	0	120,000
附 帯 費	233,240	0	0	148,347
合 計	46,556,665			44,887,309

B. 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	46,556,665
支出総額	44,887,309
収支差引額	1,669,356

2. 収支決算項目内訳

(1) 外国旅費 10,777,830円

1) 渡航費 7,265,700円
 東京～Vシフェ往復(エコミー)
 807,300円×9名＝7,265,700円

ロ) 渡航雑費 18,800円

ハ) 支度金 564,630円
 1等級 78,160円×3名＝234,480円
 2 " 70,070円×2名＝140,140円
 3 " 66,030円×1名＝66,030円
 4 " 61,990円×2名＝123,980円

二) 滞在費 2,928,700円

団員名	等級	日 当	宿 泊 費	計
飯 島 貞 一	1	4,200円 × 2日 + 3,800円 × 23日 = 95,800円	12,700円 × 1泊 + 11,400円 × 21泊 = 252,100円	347,900円
滝 沢 宏 夫	2	4,200円 × 2日 + 3,800円 × 23日 = 95,800円	12,700円 × 1泊 + 11,400円 × 21泊 = 252,100円	347,900円
小 原 成 介	2	4,200円 × 2日 + 3,800円 × 23日 = 95,800円	12,700円 × 1泊 + 11,400円 × 21泊 = 252,100円	347,900円
真 野 博 司	4	3,500円 × 2日 + 3,200円 × 23日 = 80,600円	10,900円 × 1泊 + 9,800円 × 21泊 = 216,700円	297,300円
紺 野 昭	1	4,200円 × 2日 + 3,800円 × 23日 = 95,800円	12,700円 × 1泊 + 11,400円 × 21泊 = 252,100円	347,900円
幸 野 弘 道	1	4,200円 × 2日 + 3,800円 × 23日 = 95,800円	12,700円 × 1泊 + 11,400円 × 21泊 = 252,100円	347,900円
渡 谷 実	3	3,500円 × 2日 + 3,200円 × 23日 = 80,600円	10,900円 × 1泊 + 9,800円 × 21泊 = 216,700円	297,300円
堀 清 弘	4	3,500円 × 2日 + 3,200円 × 23日 = 80,600円	10,900円 × 1泊 + 9,800円 × 21泊 = 216,700円	297,300円
小久保 寿一	3	3,500円 × 2日 + 3,200円 × 23日 = 80,600円	10,900円 × 1泊 9,800円 × 21泊 = 216,700円	297,300円
計	98	801,400円	2,127,300円	2,928,700円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 1,897,446円

1) 現地調査費 1,872,192円

ロ) 資機材等購送費 25,254円

(3) 技術費 31,943,686円

1) コンサルタント経費 31,943,686円

直接人件費 12,932,667円

諸経費 11,639,400円

技術経費 7,371,619円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 120,000円

1) 中間報告書作成費 120,000円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 148,347円

1) 庁 費 111,267円

交通費 12,790円

会議費 93,677円

その他 4,800円

ロ) 国内旅費 37,080円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

コロンビア共和国石炭開発計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

コロンビア共和国の要請に基づき、同国北部地区における石炭開発計画に関し、その地域程度を対象に開発の可能性を検討するとともに有望地域の選定を行ない将来の調査計画策定のために現地調査を実施するものである。

(2) 内容

① 石炭関連一般事情調査

② 調査対象地域の選定

③ 稼働炭鉱調査

④ 対象地域調査

○地理、地勢、気象などの自然条件調査

○炭層露頭の観察およびトレンチング・サンプリング等の地質概観を行ない、地質層序、構造、炭層状況大体の炭質、埋蔵量を把握する。

⑤ ボーリング調査計画立案のための各種情報把握

⑤ 上記調査に基づき有望地域の検討および将来の調査計画の検討を行う。

(3) 結果

① 次の炭田の現地調査を実施した。

(1) 調査対象地域

コ側提示の LA JAGUA CAUCASIA URARA SAV VICENTE の4地域のうち、LA JAGUA CAUCASIA URABAの3地域の概観を実施した。

(2) 稼働炭田

CHAPA(コ国最大の規模60万トン/年) AMAGUA CUCUTA

(3) 調査中炭田

EL CERREJO.V

② LA JAGUA CAUCASIA URABAのうち LA JAGUA が最も有望である。

LA JAGUA は理論炭量 84 万トン、可採炭量 25 万トン(概算)と規模は余り大きなものではないが、炭層露頭も比較的数量多く見られる上、地質構造も安定している。傾斜は平均 15°~25°で採掘条件は悪くないと判断される。

3 LA JAGUA に関しては今後試験掘を本(深度 250m、250m、200m の計 700m 程度)を行い、石炭サンプルを採取分析し、層序炭層、炭質等を確認することが望ましい。

収集資料、現地調査結果の検討解析は 51 年度実施する。

別紙I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間			団員名	業務	調査期間
1	団長	青木 正行	総括	5/1日 5/27~3/28	6	団員	呂田 潤一	採 鉦	28日 5/27~3/5
2	団員	仲田 光雄	採 鉦	" "	7	"	井上 浩吉	業務調整	" "
3	"	西田 久夫	"	" "					
4	"	那小屋 豊	試 錐	" "					
5	"	平田 和彦	地 質	" "					

(2) 日程、調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	2、7	土	東京発 17:00 ^{JAL002} → 2:55 木ゴタ着 19:50 ^{サトウ} 発	
2	8	日	^{BF923} → 7:45 木ゴタ着	大使館よりコ側調査日程案ヒアリング" 団員打合せ 通訳と打合せ
3	9	月	大使館 CCL	大使館：表敬 調査方針、内容説明 打合せ CCL：調査方針、内容討議、調査対象地域の選定、調査日程、便宜供与打合せ
4	10	火	AC CCL	AC：地形図収集 CCL：調査対象地域に関する打合せ
5	11	水	CCL 勳力鉦山省 AC INGEOMINAS	CCL：打合せ ボーリング"業者2社より会社概要ヒアリング" AC 資料収集 勳力鉦山省：次官表敬 INGEOMINAS：所長表敬、資料収集、便宜供与打合せ(単)
6	12	木	A班 CCL AC INGEOMINAS B班 CCL DANE	CCL：打合せ AC、INGEOMINAS、DAVE：資料収集
7	13	金	木ゴタ → バステリオ → バチバ	} 稼働炭田調査 (チャバ スエスカ等)
8	14	土	バチバ → スエスカ → ボゴタ	

日順	月 日	曜日	調 査 日 程	調 査 内 容
9	2、15	㊦		収集資料検討 団員打合せ 現地調査出発準備 会計事務
10	16	月	A班 大使館 INGEOMINAS CCL B班 大使館 DANE 動力鉱山省 CCL 出口	大使館: CCL INGEOMINAS ; 打合せ DANE: 資料収集 ジェットロ: コロンビア一般事情ヒアリング 動力鉱山省 "
11	17	火	IFI (産業関係公社) ボゴタ 15:00 ^{AV178} ⇒ 15:30 到着	IFI 表敬 セレホン炭田を中心にカリブ海沿岸地域開発計画ヒアリング
12	18	水	ククタ → マウリソ → コルネオ → ラ・カスカダ → ククタ	ククタ周辺 稼働炭田調査 (マウリソ、コルネオ、ラ・カスカダ、サンタアニタ、ラ・マンガ)
13	19	木	ククタ → サンタアニタ → ラ・マンガ → ククタ	
14	20	金	ククタ → プカラマンガ	移動
15	21	土	A班 プカラマンガ → ラ・ハグア → バジエトパール B班 プカラマンガ	A班 宿舎、人夫の手配等現地調査準備 (車3台のうち1台故障のため、B班はプカラマンガに滞在 収集資料検討)
16	22	日	B班 プカラマンガ ラ・ハグア	ラ・ハグア地域調査 ラ・ハグア ⇄ 既設鉄道 輸送手段(道路、鉄道)調査 セサル州知事からラ・ハグアの概要説明
17	23	月	22日～26日まで A、B 2班にわけ A班は ラ・ハグア B班はバジエトパールに宿泊 (B班 バジエトパール → ラ・ハグア → バジエトパール)	
18	2、24	火		
19	25	水		
20	26	木		
21	27	金		
22	28	土	バジエトパール → セレホン → リオアーチャ	セレホン炭田調査
23	29	㊦	リオアーチャ → パルミラ → サンタマルタ	パルミラ (新港予定地) } 調査 サンタマルタ港
24	3、1	月	サンタマルタ → バランチャ 17:30 ^{AV157} ⇒ 18:30 ボゴタ着	バランチャ港調査

備考 CCL: CERREJON CARBUVERAS LTDA
AC: AGUSTIN CODAZZI (地理院)
INGEOMINAS: 地質調査研究所

日順	月 日	曜日	調 査 日 程	調 査 内 容
25	3. 2	火	CCL	D.R.C URDANETAと面談(ラ・ハグア地域のコンセッションヒアリング) CCL: 現地概況報告 カウカシア ウラバ地域の調査日程打合せ
26	3	水	大使館 CCL (品田、井上 両員 ボゴタ 飛行機にて帰国)	大使館(ラ・ハグア調査概況説明及び井上、品田帰国挨拶) 収集資料整理 CCL(カウカシア、ウラバ調査準備打合せ及び井上、品田帰国挨拶)
27	4	木	ボゴタ 飛行機 $\xrightarrow{AV24}$ メデジン 到着 INGEOMINAS	INGEOMINAS メデジン支局 カウカシア ウラバ資料収集
28	5	金	国立大学鉱山学部、動力鉱山省メデジン支局	カウカシア、ウラバ 資料収集
29	6	土	メデジン → タラサ → カウカシア	移動: タラサにて調査準備
30	7	日	A班 カウカシア → タラサ → リオ・マン → タラサ → カウカシア B班 カウカシア → モンテリバノ → ビカピカ → カウカシア	A班 タラサ、リオ・マン地区調査 B班 リオ・サン・ホルハ地区調査準備(備品ガイド交渉)
31	8	月	カウカシア → モンテリバノ (ランフ) → アンチカ	リオ・サン・ホルハ地区調査
32	9	火	アンチカ (ランフ) → モンテリバノ → カウカシア	"
33	10	水	カウカシア → モンテリア	移動 途中セロ・バンド、エル・チャロ、カンピジョ 調査
34	11	木	モンテリア → サン・アントニオ・デ・タチラ → モンテリア	サン・アントニオ・デ・タチラ地区調査
35	12	金	モンテリア → アパルタード (ウラバ)	移動
36	13	土	(ウラバ)	ウラバ: ティオ・ロペス調査
37	14	日	(")	トウルボ港調査 収集資料整理 現地調査結果検討
38	15	月	(")	ビハガリト地区調査
39	16	火	アパルタード → メデジン	移動

カウカシア
地 域

日順	月 日	曜日	調 査 日 程	調 査 内 容
40	3.17	水	メデジン アマガ	移行炭鉱調査(アマガ炭鉱)
41	18	木	メデジン 14:40 飛 ^{AV129} ⇒ ホゴタ	移 動
42	19	金	ホゴタ	収集資料整理、現地調査結果検討
43	20	土	"	" "
44	21	日	"	" "
45	22	月	" 大使館 CCL INGEOMINAS 企画庁	大使館：鉱山大臣会見準備、打合せ CCL：資料収集 INGEOMINAS：資料収集 企画庁：調査概要説明
46	23	火	" CCL 動力鉱山省 INGEOMINAS	CCL：試錐業者と面談 鉱山動力省：大臣と面談 INGEOMINAS：資料収集
47	24	水	" INGEOMINAS、CCL	INGEOMINAS：資料収集、挨拶 関係機関と打合せ(於大使公邸) CCL：カヒリア氏に調査概要説明
48	25	木	" CCL	CCL：打合せ 収集資料整理 会計事務
49	26	金	大使館 AV82 ホゴタ 飛 17:20 ⇒ メキシコ着 20:50	大使館 打合せ 帰国挨拶
50	27	土	メキシコ 飛 10:55 ^{JL11} ⇒ バンクーバー着 14:00 バンクーバー 飛	16:05
51	28	日	JL11 ⇒ 東京着 19:30	

別紙Ⅱ

コロンビア共和国石炭開発計画調査収支決算書

1 収支決算総括表

A 支出

区 分	計 画 額	流 用 額	流 用 後 額	実 績 額
外 国 旅 費	円 8,442,971	円 △ 65,674	円 8,377,297	円 8,332,580
現 地 調 査 諸 費	1,196,609	65,674	1,862,283	1,862,278
技 術 費	13,790,639			13,790,639
報 告 書 作 成 費	0			0
附 帯 費	62,500			53,386
合 計	24,092,719			24,038,883

B. 収支決算

費 目	金 額
概 算 受 入 額	24,092,719
支 出 総 額	24,038,883
収 支 差 引 額	53,836

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 8,332,580円

1) 渡航費..... 3,605,700円

東京～ボゴタ 往復

515,100円 × 7名 = 3,605,700円

ロ) 渡航雑費..... 32,780円

ハ) 支度金..... 534,700円

1等級 94,910円 × 1名 = 94,910円

2 " 85,090円 × 2名 = 170,180円

3 " 80,180円 × 1名 = 80,180円

4 " 61,990円 × 2名 = 123,980円

5 " 65,450円 × 1名 = 65,450円

二) 滞在費 4,159,400円

氏名	等級	日 当	宿泊費	計
青木正行	1	3,800円×51日 = 193,800円	11,400円×48泊 = 547,200円	741,000円
仲田光雄	2	3,800円×51日 = 193,800円	11,400円×48泊 = 547,200円	741,000円
西田久夫	2	3,800円×51日 = 193,800円	11,400円×48泊 = 547,200円	741,000円
那小屋 豊	3	3,200円×51日 = 163,200円	9,800円×48泊 = 470,400円	633,600円
平田和彦	5	3,200円×51日 = 163,200円	9,800円×48泊 = 470,400円	633,600円
岳田潤一	4	3,200円×28日 = 89,600円	9,800円×25日 = 245,000円	334,600円
井上浩吉	4	3,200円×28日 = 89,600円	9,800円×25日 = 245,000円	334,600円
計		1,087,000円	3,072,400円	4,159,400円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 1,862,278円

1) 現地調査費 1,862,283円

ロ) 資機材等購送費 9,995円

(3) 技術費 13,790,639円

1) コンサルタント経費 13,790,639円

直接人件費 4,690,694円

諸経費 5,159,163円

技術経費 3,940,182円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

1) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 53,386円

1) 行 費 53,386円

交通費 0円

会議費 39,886円

その他 13,500円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務列明組)

ビルマ連邦社会主義共和国製油所建設計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙I)

3. 調査業務収支決算書(別紙II)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

ビルマ連邦社会主義共和国は、増大する石油製品の需要と原油生産の可能性を考慮し、製油所の新設を計画しており、これに対しわが国は1973年7月円借款の約束をした。

しかしながら、その後建設予定地の変更、建設コストの上昇等諸条件の変更があったため、改めてその経済的、技術的可能性について調査する必要が生じたので、同国はわが国に対し本件調査の実施を要請越したものである。

(2) 内容

(イ) 原油供給見込みの検討

i) 既存資料による原油埋蔵量および可採量の検討、評価

ii) 採油計画の作成

(ロ) 石油製品の需要予測

(ハ) 製油所の規模の検討

i) 製油所の規模

ii) 製造製品のパターン

iii) 原油および製品の輸送パイプライン

iv) 技術者および労働者の雇用

(ニ) 関連インフラストラクチャー(用水、電力、港湾)の検討

(ホ) 製油所の建設計画の作成など

i) 建設計画の作成

ii) 投資額の試算

iii) 製造、製品コストの試算

(ヘ) 関連ダウンストリームについては、本プロジェクトが既にビルマ回りの石油化学工業計画の一環として位置付けられているので、簡単な調査を行うにとどめる。

(3) 結果

ビルマ側から提案のあった製油所規模、同サイトに於いて資料検討、現地調査を実施したが、現段階では製油所とマンは、またその規模を25,000 BPSDにすることは *reasonable* だと考えられる。ただし、この場合においても原油生産の為に投資が適当額費されることが前提となる。

別紙I 調査日程

(1) 調査団員

	団員名	業務	調査期間			団員名	業務	調査期間		
			25日	5/24~3/9	7			25日	5/24~3/9	
1	団長 植木 茂夫	団長	25日	5/24~3/9	7	団員 吉井 純行	経済評価	25日	5/24~3/9	
2	団員 萩野 孝徳	プロセスエンジニア	"	"	8	" 植田 俊雄	業務調整	"	"	
3	" 赤岩 俊二	プラント	"	"	9	" 松沢 明	原油供給	17日	2/14~3/1	
4	" 中村 悦男	"	"	"	10	" 小林 康生	"	"	"	
5	" 山田 昌計	ダウンストリーム	"	"						
6	" 南雲 明	インフラ	"	"						

(2) 日程、調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	5/2、14	土	東京——JL717——バンコク	移動
2	15	日	バンコク——UB228——ラングーン	日本大使館員と調査日程打合せ
3	16	月	ラングーン	日本大使館表敬 第二工業省表敬 調査スケジュール打合せ
4	17	火	"	第二工業省にて打合せ、プラントの構成、エタナ、ターミナル、タンク等、第三班はMOCにて打合せ
5	18	水	"	第二工業大臣、鉱山大臣表敬、第二工業省にて石油製品の需要DMTの需要等打合せ "
6	19	木	"	港湾施設視察、出荷プロットプラン等打合せ 第三班はMOCにて打合せ
7	20	金	"	" 建設、通信、電力 バージ組織など打合せ "
8	21	土	第1班 ラングーン	第1班は工期等打合せ、第2班はトンボ東洋工業自動車組立工場視察 "
9	22	日	"	第1班、第3班は内部打合せ、第2班はシンデ松下ワットメーター工場等視察
10	23	月	"	第1班、財務、経済関係打合せ、第2班は原油パイプライン視察 第三班はMOCにて打合せ

日順	日	曜日	行	程	調査内容	
11	5/24	火	ラングーン	マロン	ラングーン	第1班、電力、建設機械等打合せ。第2班はテコトラクター工場視察 第3班はMOCにて打合せ
12	25	水	ラングーンマダエ→マロンマロン	マロンマロンマダエ→マロンマロン	ラングーンマダエ→マロンマロン	第1、2、3、マロン油田およびサイト候補地視察、取水口 <i>Letty</i> 候補地の視察
13	26	木	マロン	チャウク	マロンマロンマダエ→ラングーン	第3班は、マロン油田視察、第1、2班は、水処理工場視察
14	27	金	チャウク	バガン	ラングーン	第1、2班、チャウク製油所視察 チョンファン肥料工場視察 第3班アラカン石油視察
15	28	土	バガン	ラングーン	"	" バガン発ラングーン着 " MOCにて打合せ
16	29	日	ラングーン		"	内部打合せ
17	3/1	月	"	ラングーン→バンコク		シリウム製油所ダンドーデポー視察 第3班はラングーン→バンコク
18	2	火	"			<i>Summary of Activities</i> の原稿作成
19	3	水	"			大使館へ中間報告
20	4	木	"			<i>Summary of Activities</i> の検討
21	5	金	"			" "
22	6	土	"			工業大臣、鉱山大臣へ調査結果報告
23	7	日	"			内部打合せ
24	8	月	ラングーン	→バンコク		移動
25	9	火	バンコク	→東京		"

別紙Ⅱ

ビルマ連邦社会主義共和国製油所建設計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計画額	変更}額	変更}後額	実績額
	円	円	円	円
外国旅費	6,897,810			6,493,230
現地調査諸費	2,034,135			290,355
技術費	14,464,576			14,464,575
報告書作成費	0			0
附帯費	130,000			116,860
合計	23,526,521			21,365,020

B. 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	円 23,526,521
支出総額	21,365,020
収支差引額	2,161,501

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 6,493,230円

イ) 渡航費 2,433,000円

東京～ラングーン 往復

243,300円 × 10名 = 2,433,000円

ロ) 渡航雑費 29,690円

ハ) 支度金 658,940円

特等級 86,240円 × 2名 = 172,480円

1 " 78,160円 × 2名 = 156,320円

2 " 70,070円 × 3名 = 210,210円

3 " 66,030円 × 1名 = 66,030円

5 " 53,900円 × 1名 = 53,900円

二) 滞在費 3,371,600円

団員名	等級	日 当	宿 泊 費	計
植木茂夫	特	4,300円 × 25日 = 107,500円	13,100円 × 24泊 = 314,400円	421,900円
狭野孝徳	3	3,200円 × 25日 = 80,000円	9,800円 × 24泊 = 235,200円	315,200円
赤岩俊二	2	3,800円 × 25日 = 95,000円	11,400円 × 24泊 = 273,600円	368,600円
中村悦男	1	3,800円 × 25日 = 95,000円	11,400円 × 24泊 = 273,600円	368,600円
山田昌計	5	3,200円 × 25日 = 80,000円	9,800円 × 24泊 = 235,200円	315,200円
南雲 明	1	3,800円 × 25日 = 95,000円	11,400円 × 24泊 = 273,600円	368,600円
吉井純行	2	3,800円 × 25日 = 95,000円	11,400円 × 24泊 = 273,600円	368,600円
樋田俊雄	5	3,200円 × 25日 = 80,000円	9,800円 × 24泊 = 235,200円	315,200円
松沢 明	特	4,300円 × 17日 = 73,100円	13,100円 × 16泊 = 209,600円	282,700円
小林兼生	2	3,800円 × 17日 = 64,600円	11,400円 × 16泊 = 182,400円	247,000円
計		865,200円	2,506,400円	3,371,600円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 290,355円

1) 現地調査費 249,475円

ロ) 資料等購送費 40,880円

(3) 技術費 14,464,575円

1) コンサルタント経費 14,464,575円

直接人件費 5,856,104円

諸経費 5,270,493円

技術経費 3,337,978円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

1) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 116,860円

1) 庁 費 116,860円

灰 運 費 2,090円

会 議 費 103,770円

其 他 11,000円

ロ) 国内旅費 0円

昭和 50 年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書 (業務別明細)

アルゼンチン共和国鉱物資源開発計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程 (別紙 I)

3. 調査業務収支決算書 (別紙 II)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

アルゼンチン共和国政府の要請に基づき、同国北西部における銅、鉛、亜鉛等の鉱物資源開発計画に関し数ヶ地域を対象にその有望性の評価、要調査地区の選定、調査実施計画策定のための調査を実施するものである。

(2) 内容

① 鉱業関連一般事情調査

② 調査対象地域の選定

- 地質、鉱床関係 (航空写真、地形図等を含む) の資料収集、現在までの調査状況の把握
- 上記資料に基づき、鉱業庁 (SM) および陸軍工務局 (FM) 等の関係機関と打合せを行い調査対象地域を選定する。

③ 対象地域調査

- 地理、地勢、気象などの自然条件調査

- 地質層序、地質構造の概要を把握し、賦存が期待される鉱床のタイプ、鉱種、規模等の予測を行うための概査を実施する。
- 有望地域の検討および将来の調査計画の検討を行う。

(3) 結果

① 地形図、地質図および鉱業関連資料等の収集、関係機関との打合せを行い、ア国の調査状況、鉱床状況を把握した。

② SMおよびFMの開発計画地域のうち、次の地域を選定し SM班 FM班の2班にわかれ概査を実施した。

SM関係

CERRO ATAJO、FILO COLDRADO CERRO NEGRO
MINA EL BISCO、LA JABILLA MINA VIL ACHAY
の6地域

FM関係

MINA ESPERANZA、NEVADO DE QUEVA、MINA TACA-
TACA、MINA CAPILLITASの4地域

③ 以上10地域のうち CERRO ATAJO、FILO COLDRADO
および MINA CAPILLITAS の各鉱化帯を含む地帯が、一般探鉱
価値があると認められる。

収集資料、現地調査結果の検討解析は 51 年度実施する。

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間				団員名	業務	調査期間	
1	団長	銅金 義人	総括	44日	5/24~3/28	7	団員	竹下 陽一	地質	44日	5/24~3/28
2	団員	粥川 富喜雄	地質	"	"	8	"	広川 治	"	"	"
3	"	内村 激	"	"	"	9	"	田所 久造	"	26日	5/25~3/5
4	"	宮島 弘	"	"	"	10	"	中村 絃一	"	23日	2/4~3/7
5	"	新井 勝男	"	"	"	11	"	菅沼 義夫	業務調整	"	"
6	"	土屋 義弘	"	"	"						

(2) 日程 調査内容

日順	日	曜日	行程	調査内容
1	2/14	土	羽田発 16:00 JL006 ニューヨーク着 10:25' ニューヨーク発 20:45 PA203→	
2	15	日	ブエノスアイレス着 9:25'	日本大使館荒尾参事官と16日以降のスケジュール打合せ
3	16	月	FM, SM 表敬訪問 FM: 11:00~12:00 SM: 16:30~16:20'	FM: ウブリカリエ大佐と会談 SM: フェルナンデス次官と会談。荒尾参事官よりアルゼンチン経済の現況について概要説明をうけた。
4	17	火	SMとFM, SMとの合同会議	ア団鉱業に関する現状及び一般概要説明をうけた。
5	18	水	14:00~18:00 SM管理鉱区について聴取	NOA計画概要、NO25地区採鉱状況聴取。(Fillcolorado鉱床)
6	19	木	10:00~18:00 "	NO25地区 NO5地区採鉱状況聴取 (Antafalla 鉱床, Contajo 鉱床, La Boquita 鉱床など)
7	20	金	9:30~12:00 FM管理鉱区について聴取	FM概要説明をうけたのち、NO42, NO50, NO19, NO17, NO31地区の採鉱状況聴取
8	21	土	ホテルにて団員の meeting	SM, FM より聴取した採鉱状況について検討。調査行程検討。
9	22	日	イ	SM班、FM班スケジュール検討。収集資料検討

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
10	2, 23	月	FM班、SM班に分かれ、それぞれ調査に関し打合せ	FM班、各鉱床について探鉱状況詳細聴取 (Tacu - Tacu 鉱床) SM班、調査スケジュールについて SM (Dr. Yutoran Dr Revelbery) と打合せ
11	24	火	"	FM班、探鉱状況詳細聴取 (Esperanza - Inanchule 地区, Parravilla 地区) SM班、現地調査準備、資料検討
12	25	水	FM班、調査に関し打合せ SM班、Buenos Aires $18^{\circ}20' \text{AU} 20^{\circ}$ \rightarrow Tucuman $20^{\circ}30'$	FM班 調査計画打合せ。FM地区現地調査に関する覚書について FM-日本大使館で打合せ SM班: 収集資料検討、移動
13	26	木	FM班、日本大使館にて調査に関し打合せ SM班 Tucuman 滞在	FM、ア国外務省と日本大使館の調査に関する話し合い結果待ち、収集資料検討 調査地区の探鉱状況詳細聴取
14	27	金	FM班 調査準備 SM班 Tucuman 滞在	FM、ア国外務省 ~ 日本大使館で調査に関する協定成立。大使館員まじえ FM と打合せ 調査地区探鉱状況聴取、検討
15	28	土	FM班 現地調査準備 SM班 Tucuman $\xrightarrow{\text{ミル}} \text{El Ingenio}$	FM提供資料検討、資料収集 Co Atajo 向け出発移動
16	29	日	FM班 現地調査出発準備 SM班 El Ingenio $\xrightarrow{\text{ジ-ア}} \text{Co Atajo}$	FM提供資料検討、整理 Co Atajo 向け移動
17	3, 1	月	FM班 Buenos Aires $11^{\circ}00' \text{AR} 53^{\circ} 14^{\circ} \text{W}$ \rightarrow Tucuman $14^{\circ} 15^{\circ} \text{W}$ \rightarrow Salta SM班 Co Atajo 調査	Salta 向け出発移動 鉱床及び地質、地質構造調査
18	2	火	FM班 Salta 滞在 SM班 Co Atajo 調査	Salta 地方一般情勢調査、資料収集 鉱床及び地質、地質構造調査
19	3	水	FM班 FM-Salta 支所にて打合せ SM班 Co Atajo $\xrightarrow{\text{ジ-ア}} \text{Andalgala}$ C班 (中村、菅沼、田所) Salta $\xrightarrow{\text{ミル}} \text{Tucuman}$ $\xrightarrow{\text{ミル}} \text{Buenos}$	調査計画詳細打合せ、調査地区詳細探鉱状況聴取 鉱床調査、Filo Colorado 向け移動 Salta ~ Tucuman 地方一般情勢調査
20	4	木	FM班 Salta $18^{\circ}00' \text{ミル} \rightarrow \text{San Antonio de los Caballeros}$ SM班 Andalgala $\xrightarrow{\text{ジ-ア}} \text{Las Juntas}$	San Antonio de los Caballeros 向け出発移動 Filo Colorado 向け移動

日順	日	曜日	行程	調査内容
20	3、4	木	C班 (中村、菅沼、田所) Buenos 滞在	大使館と打合せ (現地調査終了後の中間報告等フォローアップなど)
21	5	金	FM班 San Antonio de los Cobres $\xleftrightarrow{\text{ジープ}}$ Esperanza - Encachule 地区 SM班 Los Tuntus $\xrightarrow{\text{馬}}$ Filo Colorado C班 (中村、菅沼、田所) Buenos $\xrightarrow{\text{バス}}$ ロサンゼルス	エスパンサーインカチュール鉱床地区調査 (地質、鉱床、地質構造調査) Filo Colorado 向け移動 日本向け出発
22	6	土	FM班 San Antonio de los Cobres $\xleftrightarrow{\text{ジープ}}$ Esperanza - Encachule SM班 Filo Colorado	California Esther, Victoria, Encachule 鉱床調査 Filo Colorado 鉱床調査 (地質、鉱床、構造、採鉱状況)
23	7	日	FM班 San Antonio de los Cobres $\xleftrightarrow{\text{ジープ}}$ Salas deposito 団長 San Antonio $\xrightarrow{\text{バス}}$ Salta 移動 SM班 Filo Colorado $\xrightarrow{\text{馬}}$ El Candado	Salas de Pasito 向け移動 (Ola Capato 鉱産物集積場、Pincon 鉱山 (Mn) 調査) ルート周辺、地質構造調査 団長は FM班と分かれ SM班合流のため Salta に帰る Andalgala 向け移動
24	8	月	FM班 Salas de Pasitos $\xrightarrow{\text{ジープ}}$ Nevado de Quera 地区 SM班 El Candado $\xrightarrow{\text{馬、ジープ}}$ Andalgala 団長 Salta $\xrightarrow{\text{バス}}$ Tucuman	Quera 変質帯の Incabunshi 地区調査 (変質、地質、構造) Andalgala 向け移動 Tucuman にて SM - Tucuman 表敬
25	9	火	FM班 Salas de Pasitos $\xleftrightarrow{\text{ジープ}}$ Nevado de Quera 地区 SM班 Andalgala にて団長合流待ち 団長 Tucuman $\xrightarrow{\text{バス}}$ Andalgala	Quera 変質帯の Mamatuni 地区調査 Co A tajo, Filo Colorado 調査結果検討 SM班と合流のため移動
26	10	水	FM班 Salas de Pasitos $\xleftrightarrow{\text{ジープ}}$ Taca - Taca 鉱床地区 SM班 Andalgala $\xrightarrow{\text{ジープ}}$ Tinogasta	鉱床及び地質調査、採鉱結果調査 Co Negro El Bisco 鉱床調査
27	11	木	FM班 Salas de Pasitos $\xrightarrow{\text{ジープ、バス}}$ Salta SM班 Tinogasta 周辺鉱山調査	Salta 向け移動 Fiamble La Jarulla 調査
28	12	金	FM班 Salta 滞在	Esperanza - Encachule 地区、Nevado de Quera 地区、Taca - Taca 地区調査 結果検討、FM - Salta と discussion。

日順	日	曜日	行 程	調 査 内 容
			SM班 Tinogasta $\xrightarrow{21:30}$ Andalgalá	Andalgalá 向け移動. 途中 Vil Aichay 鉱床調査
29	3、13	土	FM班 Salta 滞在 SM班 Andalgalá $\xrightarrow{21:30}$ Tucuman	調査結果の検討 Tucuman 向け移動
30	14	日	FM班 Salta $\xrightarrow{21:30}$ Andalgalá SM班 Tucuman 滞在	Capillitas 向け移動 調査結果の検討
31	15	月	FM班 Andalgalá $\xrightarrow{21:30}$ Capillitas SM班 Tucuman 滞在	Capillitas 鉱山坑内外調査 調査結果について SM - Tucuman 支所と検討 discussion
32	16	火	FM班 Capillitas $\xrightarrow{21:30}$ Salta SM班 Tucuman 滞在	Salta 向け移動 調査結果のまとめ. Tucuman 州知事表敬
33	17	水	FM班 Salta 滞在 SM班 Tucuman 滞在	調査結果について FM - Salta 支所と検討 discussion. まとめ 調査結果のまとめ. SM - Tucuman 支所にて説明
34	18	木	FM班 Salta $\xrightarrow{17:25ARS05}$ Buenos Aires $\xrightarrow{22:30}$ SM班 Tucuman $\xrightarrow{10:55ARS15}$ Buenos Aires $\xrightarrow{14:00}$	調査結果のまとめを FM - Salta 支所にて説明. その後 Buenos Aires 向け移動 Buenos Aires 向け移動. FM班到着をまち. スケジュール打合せ
35	19	金	SM班 FM班合流. Buenos Aires 滞在	SM班. FM班. 吃れどれ SM. FM を表敬 (調査終了を報告) 大阪館報告 合同検討は discussion. 中間レポート作成着手
36	20	土	Buenos 滞在 (中間レポート作成)	中間レポート作成. 出来上がった部分についてスペイン語訳を同時に進める。
37	21	日	" (")	" " レポート作成について打合せ (内容及びタイプ)
38	22	月	" (")	中間レポート作成とともに. アナカン発送準備 資料収集
39	23	火	Buenos 滞在	スペイン語訳作成. タイプ依頼. 校正. 資料収集
40	24	水	Buenos 滞在 (午前 3:00 頃 7-デター発生. 大部分の政府機関閉鎖. FMは通常通り open)	タイプ完成. FMの Dr Mendez. Dr Nararini と SMの Dr Yutram Dr Revelberri と内容打合せ. アナカン荷物発送依頼
41	25	木	Buenos 滞在	午前: FM に対して中間レポート提出. 説明. 午後: SM " 大使館にて近藤大使に会いさつ。
42	26	金	Buenos Aires 発 $\xrightarrow{9:30AV080}$ Los Angeles 着 $\xrightarrow{23:00}$	日本向け Buenos Aires 発 帰国
43	27	土	Los Angeles 発 $\xrightarrow{10:50JL001}$ →	"
44	28	日	→ $\xrightarrow{19:20}$ 羽田着	帰 国

別紙Ⅰ

アルゼンチン共和国鉱物資源開発計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計 画 額	変 更 } 額	変 更 } 後 額	実 績 額
	円	円	円	円
外 国 旅 費	12,342,150			11,988,060
現 地 調 査 諸 費	4,718,287			4,040,770
技 術 費	15,701,364			15,701,361
報 告 書 作 成 費	0			0
附 帯 費	60,000			41,730
合 計	32,821,801			31,771,921

B. 収支決算

費 目	金 額
概 算 受 入 額	32,821,801 円
支 出 総 額	31,771,921
収 支 差 引 額	1,049,880

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 11,988,060円

1) 渡航費 6,076,600円

東京～ブエノスアイレス往復

627,600円 × 8名 = 5,020,800円

527,900円 × 2名 = 1,055,800円

ロ) 渡航雑費 32,100円

ハ) 支度金 705,160円

1等級 94,910円 × 2名 = 189,820円

2 " 85,090円 × 1名 = 85,090円

3 " 80,180円 × 2名 = 160,360円

4 " 75,270円 × 2名 = 150,540円

5 " 65,450円 × 1名 = 65,450円

5 " 53,900円 × 1名 = 53,900円

二) 滞在費 5,174,200円

団員名	等級	日 当	宿 泊 費	計
銅 金 義 人	1	3,800円 × 42日 + 4,200円 × 2日 = 168,000円	11,400円 × 40泊 + 12,700円 × 1泊 = 468,700円	636,700円
粥 川 富 善 雄	3	3,200円 × 42日 + 3,500円 × 2日 = 141,400円	9,800円 × 40泊 + 10,900円 × 1泊 = 402,900円	544,300円
内 村 敏	3	3,200円 × 42日 + 3,500円 × 2日 = 141,400円	9,800円 × 40泊 + 10,900円 × 1泊 = 402,900円	544,300円
宮 島 弘	4	3,200円 × 42日 + 3,500円 × 2日 = 141,400円	9,800円 × 40泊 + 10,900円 × 1泊 = 402,900円	544,300円
新 井 勝 男	4	3,200円 × 42日 + 3,500円 × 2日 = 141,400円	9,800円 × 40泊 + 10,900円 × 1泊 = 402,900円	544,300円
土 屋 義 弘	5	3,200円 × 42日 + 3,500円 × 2日 = 141,400円	9,800円 × 40泊 + 10,900円 × 1泊 = 402,900円	544,300円
竹 下 陽 一	2	3,800円 × 42日 + 4,200円 × 2日 = 168,000円	11,400円 × 40泊 + 12,700円 × 1泊 = 468,700円	636,700円
広 川 治	1	3,800円 × 42日 + 4,200円 × 2日 = 168,000円	11,400円 × 40泊 + 12,700円 × 1泊 = 468,700円	636,700円
中 村 敏 一	5	3,200円 × 21日 + 3,500円 × 2日 = 74,200円	9,800円 × 19泊 + 10,900円 × 1泊 = 197,100円	271,300円
菅 沼 義 夫	5	3,200円 × 21日 + 3,500円 × 2日 = 74,200円	9,800円 × 19泊 + 10,900円 × 1泊 = 197,100円	271,300円
計		1,359,400円	3,814,800円	5,174,200円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 4,040,770円

イ) 現地調査費 3,828,650円

ロ) 資機材等購送費 212,120円

(3) 技術費 15,701,361円

イ) コンサルタント経費 15,701,361円

直接人件費 5,340,600円

諸経費 5,874,660円

技術経費 4,486,101円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

イ) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 41,730円

イ) 庁 費 41,730円

交通費 2,970円

会議費 25,260円

その他 13,500円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

インドネシア共和国ウジェンパンダン工業団地建設計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果
2. 調査日程(別紙Ⅰ)
3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

本調査は、インドネシア共和国の要請に基づき、同国スラウエシ島南スラウエシ州ウジェンパンダン市あるいはその周辺地域において、工業団地建設計画を推進するために、ジャカルタ、ウジェンパンダン等において、資料の収集、検討を行うとともに、工業団地建設可能地点およびその周辺の基盤について、現地調査を実施するものである。

(2) 内容

- i) インドネシア政府および地方政府の地域開発計画の内容および目標を把握し、その計画におけるウジェンパンダン工業団地建設計画の位置付けを明らかにする。
- ii) ウジェンパンダン市開発構想の検討
- iii) 工業団地内に導入すべき有望業種の選定
- iv) 導入業種の代替案の作成
- v) 導入業種代替案の評価

vii) 工業団地基本計画の立案

(5) 結果

インドネシア政府は、ジャワ島とその他の外領との開発格差を縮小させるために全国的に均衡のめる発展を旨とし、その一環としてウジェンパンダン市をDブロックの第1開発拠点として、その開発、育成を計っているが、ウジェンパンダン市の人口流出は全国平均を上回っており、ジャワ島との経済格差縮小のためには工業の振興を計り、人口の同地域での定着を計ることが急務である。また、同地域における経済発展の均衡を計るためには、現在のモノカルチャー的経済構造は望ましくなく、この経済構造に依存している限り同地域の発展は限られており、この点からも工業化を強力に推進することが必要である。

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間			団員名	業務	調査期間
1	団長	阿部 美紀夫	総括	21日 5/25~3/16	4	団員	涌井 哲夫	開発計画	21日 5/25~3/16
2	団員	紺野 昭	地域開発	" "	5	"	藤原 弘通	業種選定	" "
3	"	長沢 幸敏	業務調整	" "					

(2) 日程 調査内容

日順	日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	5/25	水	東京→香港→ジャカルタ	移動
2	26	木	ジャカルタ	日本大使館表敬 JICA事務所あいさつ、日程打合せ、プロガトソ工業団地視察
3	27	金	"	BKPM、BAPPENASと合同会議
4	28	土	ジャカルタ → ウジュンペンダン	ウジュンペンダン工業団地プロジェクトチーム（現地カウンターパート）と打合せ
5	29	日	ウジュンペンダン	ウジュンペンダン市、マロス県の幹線道路、水利 水源調査
6	3/1	月	"	ウジュンペンダン市市長 南スラウエシ州知事、表敬、カウンターパートと打合せ
7	2	火	"	ウジュンペンダン市長、カウンターパートと市の都市計画について打合せ
8	3	水	"	ウジュンペンダン市北部地域現地調査 <small>Aチーム 市内諸施設現地調査</small> <small>Bチーム PT Gunung Motor Ltd. 訪問</small>
9	4	木	"	(Aチーム) 職訓センター訪問、州労働局長と労働事情聴取 (Bチーム) PT Prima Flour Mill 視察 PT Selina 視察
10	5	金	"	上水処理プロジェクト訪問 現地カウンターパートと共同調査
11	6	土	"	テロ河発電所プロジェクト視察 発電所現場視察 現地カウンターパートと共同調査
12	7	日	"	ボートによるテロ河 ライライ島その他の現地調査
13	8	月	"	バンダ埠頭及びスカリ埠頭視察 現地カウンターパートと共同調査

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容	
14	5/3 9	火	ウジュンパンダン	(Aチーム) 工業団地建設候補地調査	(Bチーム) 新造船、修理船プロジェクト視察
15	10	水	ウジュンパンダン → ジャカルタ	現地カウンターパートと合同調査、南スラウエシ州知事あいさつウジュンパンダン → ジャカルタ	
16	11	木	ジャカルタ	調査結果とりまとめ、検討	
17	12	金	〃	BKPM、BAPPENASと合同会議、資料収集	
18	13	土	〃	Interim Report作成打合せ、資料収集	
19	14	日	〃	ジャカルタ ボゴール間工業地帯視察 Interim Report作成	
20	15	月	〃	日本大使館 JICA事務所にて調査結果説明、中央政府関係当局担当者と打合せ	
21	16	火	ジャカルタ → 東京	移動	

別紙Ⅱ

インドネシア共和国ウジェンパンダン工業団地建設計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計画額	流用額	流用後額	実績額
	円	円	円	円
外国旅費	3,401,420	△ 16,200	3,385,220	3,382,170
現地調査諸費	475,781	16,200	491,981	491,981
技術費	9,596,164			9,596,164
報告書作成費	0			0
附帯費	80,000			73,920
合 計	13,553,365			13,544,235

B. 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	13,553,365 ^円
支出総額	13,544,235
収支差引額	9,130

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 3,382,170円

イ) 渡航費 1,662,250円

東京～ウジェンパンダン 往復

$$332,450円 \times 5名 = 1,662,250円$$

ロ) 渡航雑費 6,000円

ハ) 支度金 264,200円

1等級 0円 × 1名 = 0円

2 " 70,070円 × 2名 = 140,140円

4 " 61,990円 × 2名 = 123,980円

二) 滞在費 1,449,800円

氏名	等級	日 当	宿泊費	計
阿部 美紀夫	2	3,800円 × 21日 = 79,800円	11,400円 × 20泊 = 228,000円	307,800円
紺野 昭	1	3,800円 × 21日 = 79,800円	11,400円 × 20泊 = 228,000円	307,800円
長沢 幸敏	2	3,800円 × 21日 = 79,800円	11,400円 × 20泊 = 228,000円	307,800円
藤原 弘通	4	3,200円 × 21日 = 67,200円	9,800円 × 20泊 = 196,000円	263,200円
涌井 哲夫	4	3,200円 × 21日 = 67,200円	9,800円 × 20泊 = 196,000円	263,200円
/				
計		373,800円	1,076,000円	1,449,800円

水) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 491,981円

1) 現地調査費 486,981円

ロ) 資機材等購送費 5,000円

(3) 技術費 9,996,164円

1) コンサルタント経費 8,996,164円

直接人件費 3,059,920円

諸経費 3,365,912円

技術経費 2,570,332円

ロ) 直接経費 600,000円

(4) 報告書作成費 0円

1) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷費 0円

(5) 附帯費 73,920円

1) 行 費 73,920円

交通費 2,760円

会議費 36,660円

その他 34,500円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

エチオピア国タナ湖周辺地域電力開発計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

エチオピア国政府の要請に基づき、同国電力電灯公社が計画している同国北部タナ湖周辺地域の電化計画に関し、既設 Tis Abbey 発電所の出力増強のためのタナ湖調整堰建設計画およびこの計画で得られる水力発電の電力を同国北部地域へ送電する計画についてフィージビリティ調査の一環としての事前調査を実施する。

(2) 内容

(1) 現地踏査

- (i) タナ湖調整堰サイトの踏査および候補地点の選定
- (ii) 同候補地点の地質調査
- (iii) タナ湖周辺部および送電線ルートへの地形概査
- (iv) 既設 Tis Abbey 発電所構造物調査
- (v) 機器搬入のための港湾施設の調査

(2) 関連資料収集

- (i) 調整堰規模の決定に影響を与えるアップーベルスプロジェクトに関する資料
- (ii) プロジェクトに関する水文・地形・地質資料
- (iii) 工事経費積算関連資料
- (iv) 経済関係資料

(3) 結果

51年度に実施予定の本調査結果と併せて分析検討する。

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

		団員名	業務	調査期間				団員名	業務	調査期間	
1	団長	成田 鏡	総括	20日	5/3/10~3/29	5	団員	中沢 義博	設計	20日	5/3/10~3/29
2	団員	小林 哲郎	経済	"	"	6	"	田辺 貞一	土木	"	"
3	"	永富 宏	地質	"	"						
4	"	渡辺 富男	電気	"	"						

(2) 日程 調査内容

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容	
1	3. 10	水	羽田出飛 16:15 (MS 865)		
2	11	木	Cairo 着 06:00		
3	12	金	Cairo 発 02:10 (AF 489) Addis Ababa 着 06:30	11:50 ~ 12:30 日本大使館挨拶 3:30 ~ 6:00 EELPA 総裁に挨拶。資料収集 打合せ	
4	13	土	Addis Ababa ~ Awash II 発電所 ~ Koka ダム 発電所 ~ Addis Ababa	Awash II および Koka ダム 発電所にて、発電所の設計条件、機器の仕様、配置状況、運転保守の状況等を視察	
5	14	日	Addis Ababa	収集資料の整理、現地調査のための諸準備。打合せ。	
6	15	月	Addis Ababa 発 7:00 (ET-230) Bahar Dar 着 8:20	10:30 a.m. Bahar Dar 発 ~ 11:00 Tis Abay 発電所着。同発電所にて構造物、機器の状況視察後、運転データ、発電所設計図等収集	
7	16	火	} Bahar Dar	(土木、地質) Tis Abay 発電所構造物調査	(電気、経済) 川知事より概況聴取、Textile 工場設備調査
8	17	水		Tana 調整ダム候補地点踏査(比較踏査)	Bahar Dar 変電所にて運転実績および関係図面収集
9	18	木		比較策サイト補足調査。土取場調査 ヘリコプターにて湖流出口および発電所河道視察	資料整理。Tamanu 局長とディスカッション

日順	月 日	曜日	調 査 日 程	調 査 内 容	
10	3. 19	金	Bakar Dar	発電所、骨材採取場調査 ヘリコプターにてタナ湖西岸空中直察	Dingna 地域電力需要調査 Bakar Dar 変電所にて補足調査
11	20	土	"	中間報告作成 ヘリコプターにて Upper Beles 州直察	ヘリコプターにて送電線ルート直察 Tamene 所長とディスカッション
12	21	日	"	気象観測所および水位観測所直察	Aiz Lomander にて Upper Beles サイト直察。中間報告書作成
13	22	月	Bakar Dar 飛 02:30 (ET-230) Gondar 着 09:00	Gondar ジーゼル発電所直察	Gondar ジーゼル発電所にて運転実績、 燃料消費実績、その他の調査
14	23	火	Gondar	中間報告書とりまとめ	
15	24	水	Gondar 飛 11:45 (ET-231) Addis Ababa 着 13:45	中間報告書とりまとめ	
16	25	木	} Addis Ababa	請負型式、土木工事単価調査	加工場直察
17	26	金		EELPAR 中間報告書提出、説明。ディスカッション	
18	27	土		補足資料収集。整理	
19	28	日	Addis Ababa 出飛 13:30 (ET-270) Bombay 着 20:50		
20	29	月	Bombay 飛 02:55 (SN-251) 羽田着 17:00		

別紙Ⅱ

工于オピア国タナ湖周辺地域電力開発計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A 支出

区 分	計画額	変更}額	変更}後額	実績額
外 国 旅 費	円 5,469,810	円 52,830	円 5,522,640	円 5,522,640
現地調査諸費	3,372,404	△ 52,830	3,319,574	2,734,556
技 術 費	7,796,586		7,796,586	7,796,586
報告書作成費	0		0	0
附 帯 費	30,000		30,000	13,000
合 計	16,668,800		16,668,800	16,066,782

B 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	円 16,668,800
支出総額	16,066,782
収支差引額	602,018

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 5,522,640円

イ) 渡航費 3,423,600円
東京～アジスアベバ 往復
570,600円 × 6名 = 3,423,600円

ロ) 渡航雑費 16,030円

ハ) 支度金 436,610円
1等級 78,160円 × 3名 = 234,480円
2 " 70,070円 × 2名 = 140,140円
4 " 61,990円 × 1名 = 61,990円

二) 滞在費 1,646,400円

団員名	等級	日 当	宿 泊 費	計
成 田 鏡	1	3,800円 × 20日 = 76,000円	11,400円 × 18泊 = 205,200円	281,200円
小 林 哲 郎	1	3,800円 × 20日 = 76,000円	11,400円 × 18泊 = 205,200円	281,200円
渡 辺 富 男	2	3,800円 × 20日 = 76,000円	11,400円 × 18泊 = 205,200円	281,200円
末 富 宏	1	3,800円 × 20日 = 76,000円	11,400円 × 18泊 = 205,200円	281,200円
中 沢 義 博	2	3,800円 × 20日 = 76,000円	11,400円 × 18泊 = 205,200円	281,200円
田 辺 真 一	4	3,200円 × 20日 = 64,000円	9,800円 × 18泊 = 176,400円	240,400円
/				
計		444,000円	1,202,400円	1,646,400円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 2,734,556円

イ) 現地調査費 2,724,686円

ロ) 資機材等購送費 9,870円

③ 技術費 7,796,586円

イ) コンサルタント経費 7,796,586円

直接人件費 2,651,900円

諸経費 2,917,090円

技術経費 2,227,596円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

イ) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 13,000円

イ) 庁 費 13,000円

交通費 0円

会議費 0円

その他 13,000円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

チリ共和国バーケル河水力発電開発計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

チリ共和国の要請に基づき、同国南部アイセン州総合開発計画の一環として計画されているアイセン州水力開発に関し、日本の水力発電開発技術をもち同開発計画に対する技術協力を行なおうとするものである。

アイセン州水力開発計画では、バーケル川及びパスクワ川の水力開発が考えられており、バーケル川の開発計画については、最近チリ電力会社が水力開発計画書を作成した。

本調査は、このENDESAの計画を全般的に見直しとともに、特に課題となる断層地帯上におけるロックフィルダム建設のための地質調査、耐震設計及びダム建設材料調査等により現地踏査を実施する。

(2) 調査内容

i) 国内準備作業

バーケル川水力発電開発計画書(プレ・フェイジビリティレポート)

を見直し、全般にわたる意見報告事項を抽出するとともに地質調査、ダム建設材料調査などに関する追加調査事項を整理する。

ii) 現地調査

① ダム地質調査計画作成のための現地調査

② ダム建設材料調査計画作成のための現地踏査

③ ダム耐震設計計画作成のための現地踏査と関連資料収集

④ 水力開発計画作成のための現地踏査と関連資料の収集

⑤ ENDESA計画書見直し事項の現地確認

(3) 調査結果

現地調査の結果は5/1年度に国内設計作業を行い、報告書として、とりまとめられる予定であるが、現地踏査結果の概要は次のとおり。

① 地質問題に関しては予定されているサイトのかなりの問題があり、直ちに調査工事を行うことが必要である。

② 材料調査の結果、コア材料の確保が課題となり、氷碛粘土が使用可能か分析試験する必要がある。

③ 耐震関係では、対象地域の地震観測網の整備が必要である。

④ 水文関係では、相関値と除外した生データで分析する必要があること、又氷河の融雪の影響をどう分析するかが課題である。

⑤ 水力開発計画の基本となる標高値が不確実のため縦断測量等による確認が必要である。

別紙I 調査日程

(1) 調査団員

	団員名	業務	調査期間		団員名	業務	調査期間
1	団長 榎並 敏夫	総括(弘設計)	44日 5/1 3/10~3/24	6	団員 蝦田 佑一	業務調整	20日 3/5~3/24
2	団員 下山 次郎	建設材料	" "	7	(現地参加)		
3	" 田中 圭吾	地質(土木地質)	" "	8	JICA部隊 西村 彥	地質	41日 (17日) 3/11~3/22 (現地調査17日間)
4	" 大町 達夫	耐 震	20 3/5~3/24				
5	" 加藤 亮司	水力計画	" "				

(2) 日程、調査内容

日順	日 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	5/2、10	火	調査団第1班(榎並、下山、田中) AF-100 20 ⁰⁰ 羽田発	機中泊
2	11	水	AV-83 20 ³⁰ サンチャゴ着	サンチャゴ泊
3	12	木	DEPLAN、ENDESA、日本大使館挨拶	"
4	13	金	ENDESA打合	現地調査日程の打合(於 ENDESA 会議室)
5	14	土		現地調査用諸備品、食糧等の調達
6	15	日		地震計現地搬送準備
7	16	月	ENDESA打合	現地調査日程の打合、携行備品調達
8	17	火	"	"
9	18	水	現地調査サンチャゴ プェルト・モン コヤイケ	移動(榎並、下山、田中、西村) コヤイケ
10	19	木	コヤイケ コクラン	"、サルトソ、チャカブゴダム 橋上空視察 コクラン
11	20	金		チャカブゴダム、タマソゴダム調査 "

日順	日	曜日	調査日程		調査内容			
12	2.21	土	コクラン	パスクワ ナデイス サルトン	移動	バーケル河口 パスクワ河堰上視察	サルトン	
13	22	日				サルトンダム調査	"	
14	23	月				サルトンダム骨材調査	バンテイスケロ調査	"
15	24	火	田中 西村 サルトン	榎並 下山 サルトン コクラン コヤイケ	田中 サルトンダム	西村 調査	榎並 移動	下山 サルトン泊 コヤイケ泊
16	25	水	"	コヤイケ サンチャゴ"	"	"	"	サンチャゴ泊
17	26	木	"	ENDESA 打合	"	"	ENDESAと調査内容打合	"
18	27	金	"	"	"	"	"	"
19	28	土	"	"	"	"	"	"
20	29	日	サルトン	→コクラン	移動	コクラン泊		"
21	3.1	月		"	チャカブコダム調査	"	"	"
22	2	火		"	"	"	"	"
23	3	水	コクラン	→コヤイケ	移動	コヤイケ泊	"	"
24	4	木		"	チャカブコ港湾調査	"	"	"
25	5	金	コヤイケ→サルトン→サンチャゴ	"	調査団第2班泊	サンチャゴ泊	"	"
26	6	土	調査団第2班(榎田大町加藤)	EV-999 15:40サンチャゴ着	調査団第1班、第2班打合せ			サンチャゴ泊
27	7	日			"			"
28	8	月	榎並 榎田大町 加藤 サンチャゴ 在休セン コヤイケ	下山 田中 西村 ENDESA 打合	榎並 榎田大町 加藤 移動	チャカブコ港湾調査 コヤイケ泊	下山 田中 西村 ENDESAと調査結果打合	サンチャゴ泊
29	9	火		"	"	"	"	"
30	10	水		"	"	"	"	"
31	11	木	コヤイケ トルテル	コクラン	移動	コクラン泊	"	"
32	12	金	コクラン	パスクワ コクラン	機上視察	"	"	"
33	13	土			チャカブコダム調査	"		"

日順	月日	曜日	調査日程	調査内容
34	3. 14	日	コロン→ナズ→サト→ ナズ→コロン→コヤケ	移動 サルトンダム調査 コヤケ泊
35	15	月	下山 田中 西村 ENDESA 打合せ	" 下山 田中 西村 ENDESAと調査結果打合せ サンチャゴ泊
36	16	火	コヤケ バルセグ "サンチャゴ" "	移動 サンチャゴ泊 "
37	17	水	日本大使館 ENDESA と打合せ	大使館に調査結果報告、ENDESA と調査結果の打合せ "
38	18	木	ENDESA 打合せ	ENDESA と調査結果打合せ "
39	19	金	OPEPLAN、ENDESA 大使館挨拶	資料搬送準備 "
40	20	土		地震計等アナコン発送 "
41	21	日		
42	22	月	調査団(榎並、下山、田中、蝦野、大町、加藤) LH-495 8 ^h 00 サンチャゴ" 出発 → ニューヨーク	調査団帰国 ニューヨーク
43	23	火	JAL 005 12 ^h 15 ニュー YORK →	
44	24	水	→ 18 ^h 30 羽田着	東京着

別紙Ⅱ

于リ共和国バーケル河水力発電所設計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A 支出

区 分	計 画 額	変更 流用 } 額	変更 流用 } 後額	実 績 額
	円	円	円	円
外国旅費	6,376,110			6,338,510
現地調査諸費	2,982,979			2,719,649
技 術 費	11,268,860			11,268,859
報告書作成費	0			0
附 帯 費	20,000			17,810
合 計	20,647,949			20,344,828

B. 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	円 20,647,949
支出総額	20,344,828
収支差引額	303,121

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 6,338,510円

イ) 渡 航 費 3,346,800円

東京～サンチャゴ 往復

602,200円 × 3名 = 1,806,600円

513,400円 × 3名 = 1,540,200円

計 3,346,800円

ロ) 渡航雑費 28,400円

ハ) 支 度 金 382,710円

1等級 94,910円 × 2名 = 189,820円

2 " 85,090円 × 1名 = 85,090円

5 " 53,900円 × 1名 = 53,900円

6 " 53,900円 × 1名 = 53,900円

計 382,710円

二) 滞在費 2,580,600円

団員名	等級	日 当	宿泊費	計
榎並 敏夫	1	3,800円 x 43日 + 4,700円 x 1日 = 168,100円	11,400円 x 40泊 + 14,600円 x 1泊 = 470,600円	638,700円
下山 次郎	1	3,800円 x 43日 + 4,700円 x 1日 = 168,100円	11,400円 x 40泊 + 14,600円 x 1泊 = 470,600円	638,700円
田中 圭吾	2	3,800円 x 43日 + 4,700円 x 1日 = 168,100円	11,400円 x 40泊 + 14,600円 x 1泊 = 470,600円	638,700円
大町 達夫	5	3,200円 x 19日 + 4,000円 x 1日 = 64,800円	9,800円 x 16泊 + 12,500円 x 1泊 = 169,300円	234,100円
蝦田 佑一	5	3,200円 x 19日 + 4,000円 x 1日 = 64,800円	9,800円 x 16泊 + 12,500円 x 1泊 = 169,300円	234,100円
加藤 憲司	6	2,700円 x 19日 + 3,400円 x 1日 = 54,700円	8,200円 x 16泊 + 10,400円 x 1泊 = 141,600円	196,300円
/				
計		688,600円	1,892,000円	2,580,600円

木) 赴帰任国内旅費 0円

(2) 現地調査諸費 2,719,649円

1) 現地調査費 2,293,109円

ロ) 資機材等購送費 426,540円

(3) 技術費 11,268,869円

1) コンサルタント経費 11,268,869円

直接人件費 3,832,947円

諸経費 4,216,239円

技術経費 3,219,673円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

1) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 17,810円

1) 庁費 17,810円

交通費 0円

会議費 17,810円

その他 0円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

インドネシア共和国サダン河水文調査

1. 調査の目的、内容及び結果

2. 調査日程(別紙Ⅰ)

3. 調査業務収支決算書(別紙Ⅱ)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

インドネシア共和国の要請に基づき、同国南スラウエシのサダン河水力発電計画の一環として同水系ママサ川に計画されるカリアン水力発電プロジェクトに関連し、同河川流域の降雨量、河川流量等のデータを整備するため、同プロジェクトに対する水文調査計画を作成し、必要とされる観測ステーションの設置について、その数位置等を検討すると同時に計測の実施に際して必要な技術的事項について指導する。

(2) 内容

昭和49年度に実施したサダン河水力発電計画に関するプレ・リミナリー調査結果に基づき、現地調査に先立つ事前の検討を行ない、次の事項について現地調査を実施する。

(i) 流域特性に関する解析資料の収集

(ii) 水文調査計画の作成

(iii) 降雨観測所及び水位観測所の設置数及びその位置の決定

(iv) 実測に関する技術指導

(3) 結果

(イ) 収集資料により作成した水文調査計画に基づき、下記のとおり測定機を設置。

量水標	スラワン地区他	8地点
自記雨量計	"	2地点
普通型雨量計	"	4地点
流速計	スラワン地区	

(ロ) 収集資料および観測結果の検討解析は、51年度実施予定のF/Sと併行して実施する。

別紙 I 調査日程

(1) 調査団員

	団員名	業務	調査期間
1	団長 千秋 慎弘	水文調査計画	25日 5/13 ~ 5/27
2	団員 土居 元之	水文技術指導	45

(2) 日程、調査内容

日順	月 日	曜日	行 程		調 査 内 容	
1	2. 31	金	東京 ~ ジャカルタ	ジャカルタ泊	移動 (JAL 712 便)	
2	14	土	ジャカルタ	"	PLN 本社で調査打合せ	
3	15	日	"	"	調査準備	
4	16	月	"	"	PLN 本社打合せ 大使館 JICA 事務所訪問	
5	17	火	"	"	ハリム空港から水文機器の引き取り 点検	
6	18	水	ジャカルタ ~ ウジュンパンダ	ウジュンパンダ泊	移動 (Garuda 782 便)	
7	19	木	ウジュンパンダ	"	PLN 8支店で調査打合せ	
8	20	金	"	"	PLN 8支店 現地調査の諸手続き (許可証等)、計器の整備	
9	21	土	"	"	PLN 8支店 支店長訪問、現地状況の聴取、諸材料の購入	
10	22	日	"	"	調査スケジュール打合せ、材料、工具等の準備	
11	23	月	ウジュンパンダ ~ エンレカン	エンレカン泊	移動 (ジープ、ミニバス)、エンレカンサイトの状況聴取 スケジュール打合せ	
12	24	火	千秋	土 居	千秋	土 居
			エンレカン ~ ジャコ	ジャコ泊	エンカ	エンカン泊
13	25	水	ジャコ ~ ガンダリ	ガンダリ泊	移動 (徒歩)	移動 (舟及び徒歩)
14	26	木	ガンダリ ~ スラン	スラン泊	移動 (徒歩)	移動 (徒歩)

日順	月	日	曜日	調 査 日 程		調 査 内 容							
				干 秋	土 居	干 秋	土 居						
15	2	27	金	スルラン	スルラン泊	カングスリ〜スルラン	スルラン泊	量水標設置	移動(徒歩) 量水標設置				
16		28	土	スルラン		スルラン泊		量水標、自記雨量計、普通型雨量計の設置					
17		29	日	"		スルラン泊		"	及び流速測定				
18		31	月	スルラン〜ジャリコ		ジャリコ泊		移動(徒歩、馬)					
19		2	火	ジャリコ〜テンバン		エンレカン泊		移動(徒歩、舟)	降雨資料収集				
20		3	水	干 秋	土 居	干 秋	土 居	移動(ジープ)	移動(ジープ及びミニバス)				
				エンレカン〜パレパレ	ウジュンパンダ	エンレカン〜パレパレ	ボレワリ泊						
21		4	木	ウジュンパンダ	ジャカルタ泊	ボレワリ	ミサワ〜シクク泊	PLN 8支店で報告 移動(Garuda 181便)	移動(ジープ、トラック)				
22		5	金	ジャカルタ	ジャカルタ泊	シクク	シクク泊	PLN本社及び大使館 報告及び打合せ	計器設置地点の選定 設置場、計器類の点検				
23		6	土	"	"	"	"	PLN本社及びTICA 報告及び打合せ	量水標雨量計設置場 ミサワ村村長訪問、観測者依頼				
24		7	日	"	"	"	"	報告書作成	設置場 洪水実績等調査				
25		8	月	ジャカルタ	〜	ホソゴン泊	"	帰国(Garuda 874便)	設置場				
26		9	火	ホソゴン	〜	大阪	"	帰国(Air India)	"				
27		10	水	"	"	"	"	"	流速測定				
28		11	木	シクク	〜	スマロロン	〜	マラボ	〜	ママサ	ママサ泊	移動(ジープ、トラック)、マラボ雨量計位置選定	
29		12	金	ママサ				ママサ降雨資料収集	マラボ雨量計設置工事 シクク雨量計				
30		13	土	"				マラボ雨量計設置工事 観測者の依頼	"				
31		14	日	ママサ	〜	マラボ	〜	シクク	〜	ボレワリ	ボレワリ泊	移動(ジープ、トラック)	
32		15	月	ボレワリ	〜	トゥグ	〜	ジャミカ	〜	トゥグ	〜	ウジュンパンダ泊	移動(ジープ、ミニバス)、トゥグ〜ジャミカ間道路状況調査
33		16	火	ウジュンパンダ				PLN 8支店調査報告					
34		17	水	"				PLN 8支店及び農林事務所にて降雨資料収集					

日順	月 日	曜日	調 査 日 程	調 査 内 容
35	3.18	木	ウジュンパンダソ ウジュンパンダソ泊	調査資料整理
36	19	金	ウジュンパンダソ～ジャカルタ ジャカルタ泊	PLN 8支店訪問、移動 (Garuda 781便)
37	20	土	ジャカルタ "	カウンターパートと打合せ
38	21	日	" "	資料整理
39	22	月	" "	・ JICA及び日本大使館調査報告 ・ PRI訪問 気象研究所 (LNG)で雨量資料調査
40	23	火	" "	気象研究所で雨量資料収集
41	24	水	" "	PLN本社調査報告
42	25	木	" "	JICA、日本大使館及びPRI訪問
43	26	金	" "	PLN本社 米文観測127112の打合せ、JICA大使館訪問
44	27	土	ジャカルタ～ホノコソ～大阪	帰国 (JAL 712、702便)

別紙Ⅱ

インドネシア共和国サダン河水文調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A 支出

区 分	計 画 額	変 更 } 額	変 更 } 後 額	実 績 額
	円	円	円	円
外 国 旅 費	1,589,590			1,576,590
現 地 調 査 諸 費	1,327,738			1,327,738
技 術 費	3,877,777			3,834,276
報 告 書 作 成 費	0			0
附 帯 費	10,000			0
合 計	6,805,105			6,738,604

B. 収支決算

費 目	金 額
概 算 受 入 額	円 6,805,105
支 出 総 額	6,738,604
収 支 差 引 額	66,501

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費 1,576,590円

イ) 渡航費 548,600円

東京～ジャカルタ 往復

274,300円 × 2名 = 548,600円

ロ) 渡航雑費 10,000円

ハ) 支度金 14,150円

3等級 (80180-66030)円 × 1名 = 14,150円

二) 滞在費 930,800円

団員名	等級	日 当	宿泊費	計
千秋 質弘	2	3,800円 × 25日 = 95,000円	11,400円 × 24泊 = 273,600円	368,600円
土居 元之	3	3,200円 × 44日 = 140,800円	9,800円 × 43泊 = 421,400円	562,200円
/				
計		235,800円	695,000円	930,800円

木) 赴帰任国内旅費 73,040円

(2) 現地調査諸費 1,327,738円

1) 現地調査費 1,075,306円

ロ) 資機材等購送費 252,432円

(3) 技術費 3,834,276円

1) コンサルタント経費 3,834,276円

直接人件費 1,304,176円

諸経費 1,434,593円

技術経費 1,096,507円

ロ) 直接経費 0円

(4) 報告書作成費 0円

1) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 0円

(5) 附帯費 0円

1) 庁費 0円

交通費 0円

会議費 0円

その他 0円

ロ) 国内旅費 0円

昭和50年度海外開発計画調査委託事業の実績報告書(業務別明細)

パプア・ニューギニア、ポラリ河電力開発計画調査

1. 調査の目的、内容及び結果
2. 調査日程(別紙I)
3. 調査業務収支決算書(別紙II)

1. 調査の目的、内容及び結果

(1) 目的

本調査は、パプア・ニューギニア国の要請を受け、同国北西部を流れるポラリ河(全長800km、貯蔵水力約1000万キロワット以上)のワボ地点の水力発電を中心に港湾及び道路、送電線等のフイージビリティ調査を日豪、パプア・ニューギニア3国共同プロジェクトとして実施するものである。

調査は昭和50年1月より開始され、現在までに下記のような調査の一部を終了し、他は継続中である。

(2) 調査内容及び結果

1) 水力発電調査(室内作業)

a) ダムサイトの検討-----測量、地質調査結果の解析に基づく主ダムレイアウトの各種代替案作成した。

b) 地形測量-----主ダム、副ダム、オーレダム、各サイトの設標作業、地上測量、航空写真撮影を

行った。

(c) 水文調査-----既存データの入力作業、低水位解析

(d) 測水-----ワボ地点の測水体制整備、測水作業水質試験を実施した。

(e) ダムレイアウト-----ダム構造物、発電所、仮排水トンネル等諸施設の基本設計作業を行った。

2) 地形図作成

実施された地上測量、航空写真撮影の結果に基づき、ワボダムサイト、サブダムサイト及びオーレダムサイトの地形図を作成した。

3) 港湾調査

オロコラ、ブラフ、ホール、サウンド各地点での地形測量、深淺測量、潮流測定、漂砂調査、海水サンプリング試験、港湾設計に必要と基礎的データの解析作業、港湾設計の基本方針等について関係者との打合せを行った。

4) 三国政府間会議、合同技術者会議

調査全体の進捗状況検討、各種技術的問題の討議、ダムレイアウト決定、全体予算の見直し、今後実施予定の調査について、実施方針、実施時期、予算等の検討を討議した。

別紙Ⅰ 調査日程

(1) 調査団員

別紙Ⅲ及びⅣのとおり

(2) 日程、調査内容

別紙Ⅳ行程表のとおり

別紙Ⅱ

パプア・ニューギニア、プラリ河電力開発計画調査収支決算書

1. 収支決算総括表

A. 支出

区 分	計画額	流用額	流用後額	実績額
外国旅費	42,006,300 ^円	△ 692,648 ^円	41,313,652 ^円	41,206,972 ^円
現地調査諸費	85,549,145	0	85,549,145	77,378,178 77,378,178
技術費	138,003,641	692,648	138,696,289	138,696,289
報告書作成費	500,000	0	300,000	210,652
附帯費	1307,600	0	1307,600	793,385
合計	267,166,686		267,166,686	278,245,476 278,245,476

B. 収支決算

費 目	金 額
概算受入額	267,166,686
支出総額	278,245,476 278,245,476
収支差引額	△ 11,078,790 △ 11,078,790

注、不足分は、他プロジェクトの残より 12,602,646 円を流用

2. 収支決算費目内訳

(1) 外国旅費

41,206,972円
 { コンサル分 56,889,937
 JICA分 4,312,025

イ) 渡航費..... 10,499,618円

東京～ポートモレスビー往復

(コンサル分 26名 = 7,201,218円
 JICA分 4名 = 3,298,400円

ロ) 渡航雑費..... 40,300円

(コンサル分 28,100円
 JICA分 12,200円

ハ) 支度金..... 698,205円

別紙Ⅱのとおり { 等級 円 × 名 = 円
 " " " " " " " " " " " "

(コンサル分 609,270円
 JICA分 88,935円

⇒ 滞在費 29,968,849円
 (コンサル分 29,051,349円
 JICA分 917,500円)

別紙Ⅲのとおり

木) 赴帰任国内旅費 0円

2) 現地調査諸費 97,338,178円 (NK 96,381,798円
~~77,338,178~~円 JICA ~~20,956,380~~円)

イ) 現地調査費 81,042,300円
 (コンサル分 80,100,690円
 JICA分 941,590
~~77,810~~円)

ロ) 資機材等購送費 16,295,878円
 (コンサル分 16,280,608円
 JICA分 15,290円)

3) 技術費 138,696,289円

イ) コンサルタント経費 94,281,189円
 直接人件費 52,068,438円
 諸経費 35,275,276円
 技術経費 26,937,477円

ロ) 直接経費 44,415,100円
 地形図作成費 43,870,000円
 コンピュータ使用料 545,100円

(4) 報告書作成費 210,652円
 イ) 原稿作成費 0円

ロ) 印刷代 210,652円

5) 附帯費 793,385円

イ) 庁費 793,385円
 交通費 12,870円
 会議費 272,747円
 その他 備人費 422,288円
 印刷費等 85,480円

ロ) 国内旅費 0円

別紙Ⅱ

調査団員外国旅費精算明細書(コンサルタント分)

団員名(格付)		日数 (月~月)	支度料	滞在費		航空賃	旅行雑費	計	經由地
				日当	宿泊費				
小田 親 (技師長)	概算	20日	39,080	$3300 \times 20 = 66,000$	$10,600 \times 16 = 169,600$	722,100	10,000	1,006,780	
	精算	10日 52.4.18~52.4.27	39,080	$3300 \times 10 = 33,000$	$10,600 \times 8 = 84,800$	492,100	0	648,980	
	差額		0	33,000	84,800	230,000	10,000	357,800	ホムー(52.4.19) " (52.4.26)
山口正史 (技師長)	概算	20日	0	$3300 \times 20 = 66,000$	$10,600 \times 16 = 169,600$	735,600	10,000	981,200	
	精算	10日 52.7.18~52.7.27	0	$3300 \times 10 = 33,000$	$10,600 \times 8 = 84,800$	476,750	0	594,550	
	差額		0	(△47,100)	(△116,400)	(△227,650)	(10,000)	△867,100	ホムー(52.7.19) " (52.7.26)
山口正史 (技師長)	概算								
	精算	9日 52.10.19~52.10.25	0	$3300 \times 9 = 29,700$	$10,600 \times 7 = 74,200$	447,900	0	551,800	
	差額								ホムー(52.10.18) 香港(52.10.24)
山口正史 (技師長)	概算								
	精算	12日 51.2.6~51.2.17	0	$4200 \times 12 = 50,400$	$12,700 \times 10 = 127,000$	524,550	0	701,950	
	差額								ホムー(51.2.7) " (51.2.16)
田辺 俊 (技師長)	概算	109日	111,650	$3,300 \times 109 = 359,700$	$10,600 \times 107 = 1,134,200$	354,300	5,000	1,964,850	(注) 実際の帰国は12月
	精算	109日 52.5.15~52.8.31	111,650	$3,300 \times 109 = 359,700$	$10,600 \times 107 = 1,134,200$	340,500	1,600	1,947,650	9月より12月はSMEC 負担
	差額		0	0	0	13,800	3,400	17,200	香港(52.5.15) " (52.12.19)

氏名(格付)		日数 (年~月/日)	支度料	滞 在 費		航空賃	旅行雑費	計	経 由 地
				日 当	宿泊費				
和田勝義 (主任技師)	概算	366日	0	$(2,900 \times 35 + 2,900 \times 300 \times 0.95) + (4,200 \times 31 \times 0.95) = 1,051,690$	$(9,000 \times 35 + 9,000 \times 299 \times 0.95) + (12,700 \times 31 \times 0.95) = 3,245,465$	183,900	0	4,481,055	
	精算	366日 50.4.1~51.3.31	0	$(2,900 \times 35 + 2,900 \times 240 \times 0.95) + (4,200 \times 91 \times 0.95) = 1,125,790$	$(9,000 \times 35 + 9,000 \times 239 \times 0.95) + (12,700 \times 91 \times 0.95) = 3,456,365$	0	0	4,582,155	
	差額		0	△ 74,100	△ 210,900	183,900	0	△ 101,100	
荒木田留吉 (主任技師)	概算	153日	0	$2,900 \times 153 = 443,700$	$9,000 \times 152 = 1,368,000$	183,900	0	1,995,600	(注) 実際の帰国は
	精算	153日 50.4.1~50.8.31	0	$2,900 \times 153 = 443,700$	$9,000 \times 152 = 1,368,000$	294,987	0	2,106,687	51年2月 50年9月より2月まで SMEの負担
	差額		0	0	0	△ 111,087	0	△ 111,087	注=- (51.2.15)
早崎秀美 (主任技師)	概算	30日	85,090	$2,900 \times 30 = 87,000$	$9,000 \times 28 = 252,000$	367,800	6,000	796,890	
	精算	30日(実費61日) 50.7.9~50.8.7	85,090	$2,900 \times 30 = 87,000$	$9,000 \times 28 = 252,000$	555,566	1,600	981,256	
	差額		0	0	0	△ 187,766	3,400	△ 184,366	注=- (50.7.10) " (50.8.6)
野中 哲 (技師B)	概算	200日	0	$2,500 \times 109 + 3,500 \times 91 = 591,000$	$(7,900 \times 105) + (10,900 \times 91) = 1,821,400$	773,850	5,000	3,191,250	
	精算	45日 50.4.1~50.5.15	0	$2,500 \times 45 = 112,500$	$7,900 \times 44 = 347,600$	179,250	0	639,350	
	差額		(0)	(478,500)	(1,473,800)	(594,600)	(4,500)	1,951,900	香港 (50.5.14)
野中 哲 (技師B)	概算								
	精算	16日 50.6.18~50.7.3	0	$2,500 \times 16 = 40,000$	$7,900 \times 14 = 110,600$	367,800	0	518,400	
	差額								香港 (50.6.18) " (50.7.2)

团员名(格付)		日数 (何~何)	支度料	現在費		航空賃	旅行雑費	計	經由地
				日当	宿泊費				
野中 哲 (技師B)	概算								
	精算	139日 50.11.14~51.3.31	0	$(2500 \times 48) + (3500 \times 29) + (5500 \times 62 \times 0.8) = 395,100$	$(7,900 \times 47) + (10,900 \times 29) + (10,900 \times 62 \times 0.8) = 1,228,040$	223,075	500	1,846,715	
	差額								注=- (50.11.15)
明波 正 (技師B)	概算	366日	0	$(2500 \times 35) + (2500 \times 27) \times 0.95 + (3500 \times 60 \times 0.95) = 958,625$	$(7,900 \times 35) + (7,900 \times 27) \times 0.95 + (10,900 \times 60 \times 0.95) = 2,924,150$	183,900	0	4,038,675	(注) 日当、宿泊料91日分 本新年間
	精算	366日 50.4.1~51.3.31	0	$(2500 \times 35) + (2500 \times 24) \times 0.95 + (5500 \times 60 \times 0.95) + (5500 \times 1095 \times 0.8) = 939,460$	$(7,900 \times 35) + (7,900 \times 23) \times 0.95 + (10,900 \times 60 \times 0.95) + (10,900 \times 51) \times 0.95 = 2,948,390$	0	0	3,887,759	
	差額		0	△ 2,835	24,149	183,900	0	150,916	
水口 勇 (技師B)	概算	214日	0	$2500 \times 35 + 2500 \times 179 \times 0.95 = 512,625$	$7,900 \times 35 + 7,900 \times 178 \times 0.95 = 1,612,390$	183,900	0	2,308,915	
	精算	215日 50.4.1~50.11.1	0	$2500 \times 35 + 2500 \times 180 \times 0.95 = 515,000$	$7,900 \times 35 + 7,900 \times 179 \times 0.95 = 1,619,895$	181,957	0	2,316,852	
	差額		0	△ 2,375	△ 7,505	1,943	0	△ 7,937	香港 (50.11.1)
菅生 義 宏 (技師B)	概算	153日	0	$2,500 \times 153 = 382,500$	$7,900 \times 152 = 1,200,800$	177,150	0	1,760,450	
	精算	153日(実174日) 50.4.1~50.9.21	0	$2,500 \times 153 = 382,500$	$7,900 \times 152 = 1,200,800$	284,701	0	1,868,001	
	差額		0	0	0	△ 107,551	0	△ 107,551	注=- (50.9.20)
小谷 淳 直 (技師C)	概算	122日	0	$2,500 \times 122 = 305,000$	$7,900 \times 121 = 955,900$	183,900	0	1,444,800	
	精算	122日 50.4.1~50.7.31	0	$2,500 \times 122 = 305,000$	$7,900 \times 121 = 955,900$	189,829	0	1,450,729	
	差額		0	0	0	0	0	△ 5,929	香港 (50.7.31)

団員名(格付)		日数 (月日~月日)	支度料	滞 在 費		航空賃	旅行雑費	計	経 由 地
				日 当	宿 泊 費				
片山陽夫 (技術員)	(一區) 概算	30日	94,910	$3300 \times 30 = 99,000$	$10,600 \times 28 = 296,800$	367,800	5,000	869,510	(注) 契約12おける一區 と交換
	精算	49日 50.8.15~50.11.8	65,450	$2,200 \times 49 = 107,800$	$6800 \times 47 = 319,600$	367,800	1,600	862,250	
	差額		29,460	△ 8,800	△ 22,800	0	3,400	1,260	香港(50.8.15) " (50.11.7)
畑尾成道 (技師C)	概算	97日	77,000	$2500 \times 6 + 3500 \times 91 = 333,500$	$7,900 \times 5 + 10,900 \times 91 = 1,031,400$	183,900	5,000	1,639,800	
	精算	97日 50.12.26~51.3.31	77,000	$2,500 \times 6 + 3,500 \times 31 + 3,500 \times 60 \times 0.8 = 291,500$	$7,900 \times 5 + 10,900 \times 31 + 10,900 \times 60 \times 0.8 = 920,600$	183,900	1,600	1,454,600	
	差額		0	42,000	130,800	0	3,400	176,200	香港(50.12.26)
水谷元啓 (技師C)	概算	83日	77,000	$3,500 \times 83 = 290,500$	$10,900 \times 82 = 893,800$	228,900	5,000	1,495,200	
	精算	83日 51.1.9~51.3.31	77,000	$3,500 \times 23 + 3,500 \times 60 \times 0.8 = 248,500$	$10,900 \times 22 + 10,900 \times 60 \times 0.8 = 763,000$	223,950	13,000	1,325,450	
	差額		0	42,000	130,800	4950	△ 8,000	169,750	≧K=- (51.1.10)
大久保清邦 (技師C)	概算	35日	65,450	$3,500 \times 35 = 122,500$	$10,900 \times 32 = 348,800$	457,800	5,000	999,550	
	精算		0	0	0	0	0	0	
	差額		65,450	122,500	348,800	457,800	5,000	999,550	
岩田健治 (技師C)	概算	81日	0	$2,500 \times 81 = 202,500$	$7,900 \times 80 = 632,000$	177,150	0	1,011,650	
	精算	81日(実質88日) 50.4.1~50.6.29	0	$2,500 \times 81 = 202,500$	$7,900 \times 80 = 632,000$	170,250	0	1,004,750	
	差額		0	0	0	6,900	0	6,900	香港(50.6.28,29)

団員名(格付)		日数 (始~日)	支戻料	滞 在 費		航空賃	旅行雑費	計	経 由 地
				日 当	宿 泊 費				
前田賢徳 (技師C)	概算	81日	0	$2,500 \times 81 = 202,500$	$7,900 \times 80 = 632,000$	177,150	0	1,011,650	
	精算	81日(実費88日) 50.4.1~50.6.28	0	$2,500 \times 81 = 202,500$	$7,900 \times 80 = 632,000$	170,250	0	1,004,750	
	差額		0	0	0	6,900	0	6,900	香港(50.6.28.29)
清水美博 (技術員)	概算	163日	0	$2,200 \times 153 = 336,600$	$6,800 \times 152 = 1,033,600$	177,150	0	1,547,350	
	精算	153日(実費174日) 50.4.1~50.9.21	0	$2,200 \times 153 = 336,600$	$6,800 \times 152 = 1,033,600$	284,701	0	1,654,901	
	差額		0	0	0	△107,551	0	△107,551	シド=- (50.9.20)
菅野秀明 (技術員)	概算	117日	77,000	$2,200 \times 117 = 257,400$	$6,800 \times 116 = 788,800$	354,300	5,000	1,482,500	
	精算	117日(実費138日) 50.5.7~50.9.21	77,000	$2,200 \times 117 = 257,400$	$6,800 \times 116 = 788,800$	454,951	4,100	1,582,251	
	差額		0	0	0	△100,651	900	△99,751	香港(50.5.7) シド=- (50.9.20)
武石甚作 (技術員)	概算	117日	77,000	$2,200 \times 117 = 257,400$	$6,800 \times 116 = 788,800$	354,300	5,000	1,482,500	
	精算	117日(実費138日) 50.5.7~50.9.21	77,000	$2,200 \times 117 = 257,400$	$6,800 \times 116 = 788,800$	454,951	4,100	1,582,251	
	差額		0	0	0	△100,651	900	△99,751	香港(50.5.7) シド=- (50.9.20)
梁田文雄 (技術員)	概算	81日	0	$2,200 \times 81 = 178,200$	$6,800 \times 80 = 544,000$	177,150	0	899,350	
	精算	81日(実費88日) 50.4.1~50.6.28	0	$2,200 \times 81 = 178,200$	$6,800 \times 80 = 544,000$	170,250	0	892,450	
	差額		0	0	0	6,900	0	6,900	香港(50.6.28.29)

員名(格付)		日数 (始~終)	支度料	滞 在 費		航空賃	旅行雑費	計	經由地
				日 当	宿 泊 料				
赤木俊郎 (技術員)	概算	8/日	0	$2,200 \times 81 = 178,200$	$6,800 \times 80 = 544,000$	177,150	0	899,350	
	精算	8/日(実績85日) 50.4.1~50.6.28	0	$2,200 \times 81 = 178,200$	$6,800 \times 80 = 544,000$	170,250	0	892,450	
	差額		0	0	0	6,900	0	6,900	香港(50.6.28,29)
総 計	概算		704,180	7,254,140	22,387,505	6,443,050	65,000	37,299,875	
	精算		609,270	7,112,450	21,950,899	7,201,215	28,100	36,489,937	
	差額		94,910	141,690	448,606	△ 318,165	56,900	409,938	

調査団員外国旅費精算明細書 (JICA分)

団員名(格付)		日数 (月日～月日)	支度料	滞在費		航空賃	旅行雑費	国内旅費	計	共済掛金
				日当	宿泊費					
植 政一 (1級)	概算	12日間 11/18～11/29	0	$3,300 \times 10 + 3,200 \times 2$ = 39,400	$10,600 \times 9 = 95,400$	535,150	5,000	0	674,950 (674,196)	754
	精算	12日間 11/19～11/30	0	$3,300 \times 10 + 3,200 \times 2$ = 39,400	$10,600 \times 9 = 95,400$	535,150	2,000	0	671,950 (671,196)	754
	差額		0	0	0	0	3,000	0	△ 3,000	0
茂木 厘一 (3級)	概算	19日間 11/11～11/29	0	$2,500 \times 17 + 2,400 \times 2$ = 47,300	$7,900 \times 16 = 126,400$	535,150	5,000	0	713,850 (712,878)	972
	精算	19日間 11/12～11/30	0	$2,500 \times 17 + 2,400 \times 2$ = 47,300	$7,900 \times 16 = 126,400$	535,150	4,200	0	713,050 (712,078)	972
	差額		0	0	0	0	800	0	800	0
菅沼 義夫 (5級)	概算	19日間 11/11～11/29	0	$2,500 \times 17 + 2,400 \times 2$ = 47,300	$7,900 \times 16 = 126,400$	535,150	5,000	0	713,850 (712,878)	972
	精算	19日間 11/12～11/30	0	$2,500 \times 17 + 2,400 \times 2$ = 47,300	$7,900 \times 16 = 126,400$	535,150	2,000	0	710,850 (709,828)	972
	差額		0	0	0	0	3,000	0	3,000	0
合 計	概算		0	134,000	348,200	1,605,450	15,000	0	2,102,650 (2,099,952)	2,698
	精算		0	134,000	348,200	1,605,450	8,200	0	2,095,850 2,093,152	2,698
	差額		0	0	0	0	6,800	0	6,800	0

調査団員外国旅費精算明細書 (JICA分)

団員名(格付)		日数 (日/月)	支度料	滞 在 費		航空賃	旅行雑費	国内旅費	計	共済掛金
				日 当	宿 泊 費					
浅野 栄市 (2級)	概算	13日 7/6~7/18	円 35,035	$4,200 \times 11 + 3,800 \times 2$ = 53,800 円	$12,700 \times 10 = 127,000$ 円	円 576,250	円 5,000	0	792,085 円 (794,473)	療養共済 1,012 弔慰金 1,600 合計 2,612
	精算	13日 7/6~7/18	35,035	$4,200 \times 11 + 3,800 \times 2$ = 53,800	$12,700 \times 10 = 127,000$	576,250	2,000	0	794,085 (791,473)	療養共済 1,012 弔慰金 1,600 合計 2,612
	差額		0	0	0	0	3,000	0	3,000	0
富本 幾文 (6級)	概算	13日 7/6~7/18	26,950	$3,000 \times 11 + 2,700 \times 2$ = 38,400	$9,100 \times 10 = 91,000$	576,250	5,000	0	737,600 (735,276)	療養共済 724 弔慰金 1,600 合計 2,324
	精算	13日 7/6~7/18	26,950	$3,000 \times 11 + 2,700 \times 2$ = 38,400	$9,100 \times 10 = 91,000$	576,250	2,000	0	734,600 (732,276)	療養共済 724 弔慰金 1,600 合計 2,324
	差額		0	0	0	0	3,000	0	3,000	0
佐瀬 正敬 (5級)	概算	12日 7/7~7/18	26,950	$3,500 \times 10 + 3,200 \times 2$ = 41,400	$10,900 \times 9 = 98,100$	576,250	5,000	0	747,100 (745,319)	療養共済 781 弔慰金 1,600 合計 2,381
	精算	11日 7/8~7/18	26,950	$3,500 \times 9 + 3,200 \times 2$ = 37,900	$10,900 \times 8 = 87,200$	540,450	0	0	692,500 (690,200)	療養共済 700 弔慰金 1,600 合計 2,300
	差額	1日	0	3,500	10,900	35,800	5,000	0	55,200	81
合 計	概算		88,935	133,600	316,100	1,729,750	15,000	0	2,282,385 (2,275,068)	7,317
	精算		88,935	130,100	305,200	1,692,950	4,000	0	2,221,185 (2,213,949)	7,236
	差額		0	3,500	10,900	35,800	11,000	0	61,200	81

別紙 四

調査団の編成および調査日程

編成	分担	格付	日数	49年度 3	50年度 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	51年度 4
1 田長 和田 勝義	総括	2	366	-----													
2 田長 荒畑 宙夫	設 営	2	153	-----					31								
3 野中 哲	計 画	4	200	-----		15	18	3				14					
4 明渡 正	庶 務	4	366	-----													
5 片山 陽夫	水 文	6	49	-----					13					8			
6 水口 勇	"	4	215	-----										1			
7 小谷 淳彦	測 水	5	122	-----					31								
8 早崎 秀夫	航空写真	2	30	-----				9	8								
9 菅生 辰成	測 量	4	153	-----													
10 清水 英博	"	6	163	-----													
11 菅野 秀明	"	6	117	-----													
12 武石 昌作	"	6	117	-----													
13 岩田 健治	海洋調査	5	81	-----													
14 前田 賢徳	"	5	81	-----													
15 梁田 文雄	"	6	81	-----													
16 赤本 俊郎	"	6	81	-----													
17 田辺 俊	開拓環境調査	1	109	-----													
18 小田 祝	合同技術要員	1	10	-----	18	27											
19 山口 正史	合同技術要員	1	21	-----					18	27							
20 植 政一	業務調整	1	12	-----													
21 茂木 理一	"	3	19	-----													
22 菅沼 義夫	"	5	19	-----													
23 浅野 栄市	"	2	13	-----													
24 佐瀬 正敏	"	5	11	-----													
25 富本 茂文	"	6	13	-----													
26 水谷 元啓	設 計	5	85	-----													
27 畑尾 成道	"	5	97	-----													

